

大正大学

鴨台会報

Renewal

創刊号

NO. 94

母校の未来を描く。

鴨台会

綴

きずね

スペシャル対談 01

変化なくして発展はない 大学、鴨台会ともに 時流をとらえた柔軟な改革を



大正大学学長
多田 孝文



大正大学鴨台会会長
里見 達人

変化なくして発展はない 大学、鴨台会ともに 時流をとらえた 柔軟な改革を

大正大学は『週刊東洋経済』（10月22日発行）「ニッポンの大学トップ100」の「本当に強い大学総合ランキング」に選ばれました

また東日本大震災における支援活動が多くメディアに取り上げられています

こうした記事を目にして、母校の最近の活躍ぶりを頼もしく感じられた方も多いでしょう

創立90周年に向けて、同窓生の皆様の期待にいつそ応えられるよう、

本学は改革を推進しています

母校が何を指そうとしているのか。そのために、同窓生として何ができるか

里見達人鴨台会会長、多田孝文学長に、

大正大学と鴨台会の「いま」、期待する「将来像」について

語っていただきました



来春完成！ 06

「新3号館」その全貌

クローズアップ鴨台 プロフェッショナルの魂 10

活躍する同窓生

オープンカレッジのすすめ 18

同窓生のための教養ラウンジ

くらしのマネジメント 22

傾聴について

柳田 多美 (臨床心理学科 准教授)

良正庵 ほほえみ相談室 24

智慧のことは 28

とをと おさめて またはじまるを

勝野 隆広 (仏教学科 准教授)

My Way 私の歩んできた道 30

チャレンジから 美しく輝く

西蔭 浩子 (表現学部長・教授)

鴨台アスリート 34

同窓生でつなぐリレーエッセイ 36

今回のテーマ「私のお気に入り」

鴨台倶楽部ガイド 42

鴨台倶楽部がスタートしました —自分たちで作れる同窓会—

鴨台倶楽部紹介 44

支部会だより 48

栃木県支部48 埼玉県支部49 山梨県支部50 栃木県支部50

千葉県支部51 群馬県支部51 岩手県支部52 福岡県支部52

大分県支部53 北海道第一支部53 中国・四国支部54 茨城県支部55

三重県支部56

同窓生でつながろう 58

和歌山県支部が誕生しました

同期会だより 59

平成23年度 大正大学鴨台会理事会議事録 62

大正大学 遺産 66

平成24年度 入試日程・進学相談会 68

リニューアルされた鴨台会ホームページ 69

大正大学学長
多田 孝文

Kobun Tada

2010年より第33代学長
就任。法華経を研究テーマとし、「天台大師全集・法華文句」（中山書房佛書林）などの著作多数。



大正大学鴨台会会長
里見 達人

Tatsuto Satomi

2000年から2009年まで大正大学理事長歴任。現在、大正大学鴨台会会長、大正大学相談役、理事、評議員。



「変化」こそが 生き残るための 必須条件

多田：『週刊東洋経済』の「ニッポンの大学トップ100」に選ばれるなど、本学にとって励みとなる話題が続いています。創立90周年記念事業として中期マスタープランを策定し、大学改革を積極的に推進しているところですが、大学が継続的に発展していくためには、何といても同窓生の方々の力が欠かせません。このため、「鴨台会（同窓会）支部活動の充実」また「鴨台倶楽部」の発足、「鴨台会報」の全面改訂など、鴨台会活性化のためのさまざまな施策を打ち出しています。今日は、大学や鴨台会の現状、方向性について、里見会長に忌憚のないご意見をうかがいたいと思います。

里見：少子化による大学全入の時代を迎え、定員を充足できない大学が続出する中で、本学は3年続けて入学志願者が増加しています。まずは、当局のご努力に

敬意を表したいと思います。いま、大学を取り巻く環境は急激に変化しています。例えば、高校生が大学を選ぶ価値観がそうでしょう。第一にロケーション。都会にあるか、設備や環境が良いか。そして、魅力的な学部があるか、就職率が高いか等々、判断基準が多様化しています。ですから、旧態依然とした地味な大学のままでは時代に乗り遅れてしまうのです。

多田：中期マスタープランでは、学部・学科改組をはじめとする教育改革、キャンパス整備、地域貢献・社会貢献の3つを柱に据えて、時流に合った大学に生まれ変わろうと青写真を描いています。具体的には、

①教育改革
平成22年に「仏教学部」「人間学部」「文学部」「表現学部」の4学部体制にし、さらに平成24年度入試からの受験生の「トズの高い分野（臨床心理学科・歴史学科・表現文化学科）において定員増を行いました。1学年1000名規模の大学を目指して発展を続けていきます。

②キャンパス整備
都市型キャンパスにむけての全面リニューアルを図っていきます。平成22年4月に7号館を完成しました。最新機能を取り揃えて学生の学習意欲を高めています。平成22年6月には6号館（体育棟）が誕生し、平成24年3月にも新たな3号館が竣工します。

③地域貢献
地域と連携して学ぶ。そのことを通じて「智慧と慈悲の実践」という建学の精神を具現化し、社会貢献を果たしていきます。3月11日の東日本大震災を受け、被災地でのボランティア活動に取り組みました。被災地のためにと学生・教職員が一体となり、建学の精神の本質に触れた活動をしてまいりました。

私は、学長就任以来、この改革路線を愚直に推進しているわけです。

里見：柔軟性があり、人心の機微に長けた学長先生に改革を率いていただき、とても頼もしく思っています。ですが、本学はまだまだ変わっていかなければいけ

ない。宗門ではない一般の学生が8割を超えています。

多田：おっしゃる通りに、本学では平成13年のあたりから、宗門系卒業生と一般の卒業生の比率が大きく逆転していますね。10年後には、一般の卒業生が2万人に達するのではないのでしょうか。

里見：キリスト教系の大学にしろ、神道系の大学にしろ、建学の精神は大事に守っています。宗教を専攻する学生は1〜2割なのです。本学も一般の学生に対して、いままで以上に目を向けなければいけないと思います。

多田：その責任は痛感しています。里見：本学は4学部を擁するまじりませんが、もっともオープンになっていく必要があります。単科大学の殻に閉じこもるのではなく、もう少し学部数を増やして総合大学を目指したいと思っています。時代とともに柔軟に変わっていくことが、生き残っていくための必須条件なんです。その意味で、表現学部の試みは楽しみですね。これは新しい大正

大学を象徴する学部と言えるのではないのでしょうか。文章、映像、身体表現などさまざまな可能性を秘め、大きな広がりを感じさせる素晴らしい学部です。女子学生の入学も大いに期待できます。

多田：そうです。志願者増が顕著なものもこの表現学部です。やはり、建学の精神、学問の根本的な有り様を大事にしながらも、いまの学生に訴えかけるような仕掛けをしていくことが重要なのではないでしょうか。

受験生、保護者に 広く支持される 本学の建学の精神

多田：おかげさまで、学生を採用した企業から「人柄が素晴らしい」とお褒めの言葉をいただいたり、あるいは「ニッポンの大学トップ100」の総合ランキングで選ばれたり、本学の社会的評価が高まっています。これは、改革の中で、建学の精神が時代に合った形でわかりやすく打ち出されたこ

とも大きいのではないかと思うのです。つまり「4つの人となる」という教育ビジョンですね。これにより、「智慧と慈悲の実践」ということがより明確に意識できるようになりました。教職員も学生もそれに則った行動ができるような自分になろうと日々努力を続けています。東日本大震災におけるボランティア活動もその表れと言えます。こうした努力している姿勢が評価されて、志願者増につながっているのは喜ばしいですね。

里見：建学の精神が大学の命であることは言うまでもありません。それはどんな時代になっても不易、普遍のものです。特に、本学が理念に掲げる仏教の精神は、日本人なら誰でも心の中に深く染み付いているものです。決して宗門に限ったことではない…。

多田：そうですね。一般の学生も仏教の心を学べばさらに素晴らしい人材に育っていくはず。また、最近オープンキャンパスで親御さんを多く見かけるようになりましたが、本学が持つ雰囲気

とても気に入ってくださっています。効率ばかりが優先された世の中の有り様に疑問を感じ、本学の精神性に魅力を感じていらっしやるかもしれません。建学の精神が時代に広く受け入れられることの証ですね。

従来の同窓会の 枠組を超えた あらたな展開に期待

里見：大学は、学生、教職員、同窓生で成り立っています。この三者が同じように成長、発展していかねばいけないのです。ところが本学の場合は、同窓生との結びつきを深める取組みが、残念ながら不足していました。さらに近頃は、圧倒的に多い一般の同窓生に対して十分な働きかけを行ってきたかという疑問を感じずにはいられません。同窓生を大切にしない大学に未来はありません。このことを大学当局にも強く訴えたいし、同窓会自体も変わっていかねばならない…。

多田…まさにその反省を踏まえて発足したのが「鴨台倶楽部」です。地道な努力を重ねて組織化を図っていきたくと考えています。軌道に乗れば大学にとって大きな力となるはずです。また、同窓生にとっても自身の活動をアピールする場として大いに活用していただきたい。大学、同窓生双方にとってメリットとなる展開ができればと思っています。

里見…さまざまな可能性が考えられると思いますね。例えば、アドミッション活動がその一つです。他大学では、同窓会が地域のネットワークを活かして広報、学生募集活動を展開しています。今年、新たに本学鴨台会は和歌山県支部が誕生し、これで全国すべての道府県を網羅することになりました。この地域支部と「鴨台倶楽部」のネットワークが動けば鬼に金棒でしょう。さらに鴨台会と大学の事業法人が連携して、新たに活動や事業を展開している大学も多く見られますが、こうした動きもとても参考になりました。

日本の私立大学の中でもトップレベルでしょう。『週刊東洋経済』は、収支から借入金まで細かく調べた結果ですから、トップ100に選ばれたことは経営状況の良さの証明です。もちろん、教育力や就職力においても、教職員、学生の意識が非常に高まっています。加えて、キャンパスのロケーションを整備する努力も積極的に行っています。鴨台会も負けてはいられない。いま改革をやらざるをえないという思いです。

多田…本学の改革の中心に「TSR」（大正大学の社会的責任）という概念があります。これは、学生や保護者、同窓生はもちろん、さらに地域社会まで広げたステークホルダー（関係者）の満足度向上や期待、要望に応えるために、教育や地域、社会貢献などについて本学としての責任を果たしていこうという姿勢です。本学はこれまで以上に同窓生支援に力を入れていきますが、同時に皆さんもTSRを担う大正大学の一員で

■ 本学がトップレベルの経済週刊誌『週刊東洋経済』で「ニッポンの大学トップ100」ランク入り

- 「本当に強い日本の大学総合ランキング」96位（教育力・就職力・財務力）
- 「志願者数増減率」トップ10ランク入りの44.6%増
- 「自己資本比率」が88.2%の高水準

『週刊東洋経済』は、明治28年発刊で、100年以上の歴史を持ち、経済誌の中でトップレベルの週刊誌。今回の中で、「本当に強い日本の大学総合ランキング」に選ばれました。これは各大学の教育力、就職力、財務力を計11の指標で総合判断しランキングにしたもの。本学がトップ100（96位）に選ばれたのは初めて。難関大学、総合大学と肩を並べる快挙と言えます。本学は特に「志願者数増減率（44.6%）」「自己資本比率（88.2%）」の高さが評価を受けました。



す。つまり、これからの同窓会活動は、昔ながらの卒業生が親睦を深めるだけのコミュニケーションではなく、多面的に活動のスタイルを広げていく必要があります。

多田…大学としては、就職・キャリア支援においても、同窓生の力を貸していただきたいですね。学生を採用した企業から、真面目である、忍耐強いという評価をいただいで、毎年採用が続き、非常に好ましい関係ができています。この素晴らしい学生たちを同窓生にもぜひ受け入れていただきたいと思うのです。一般企業でもたくさん同窓生が活躍されているわけですから、大いに期待しています。そのためにも、堅苦しい同窓会スタイルではなく、柔軟で、フレキシブルな関係が築けるような形に変わって欲しいです。

里見…そう、大学にしろ鴨台会にしろ、組織が成長するには柔軟性が必要です。伝統はもちろん大事です。伝統は長い年月をかけて作り上げられてきたもので、

これを支えてきたのはほかならぬ同窓生です。しかし、伝統を守るだけではだめで、大学同様、鴨台会も時代の進運に乗り遅れないように進歩していかなければいけないのです。

いまこそ 鴨台会活性化の好機

多田…先ほどからお話ししている通り、本学が「ニッポンの大学トップ100」に選ばれたことは、いろいろな要素が加味された結果ですが、特に私が着眼したのは、入学志願者の伸び率です。これが都内私立大学の中でベスト5に入っているんですね。中規模の大学としては大健闘です。

里見…そうですね。改革はちょっと出遅れた感がありましたが、遅ればせながら非常にいい時期を迎えていると思います。いまこそ鴨台会を活性化するチャンスです。
多田…同窓生もこれからどんどん多くなつていきます。
里見…いま、本学の経営状況は

す。それぞれの立場で社会的責任を果たされていると思います

が、ぜひ母校にも目を向け、力になろう、一緒にやろうと名乗りをあげていただきたいです。
里見…そう、従来の同窓会という概念を打ち破るぐらいの柔軟な発想で、古い意識から脱皮しなくてはだめです。

多田…素晴らしい素質を持つ学生たちですが、やや大人しい。同窓生の手で、彼ら彼女らの背中を押し、将来に向けて弾みをつけて送り出してやってください。大正大学の心を次代につなげ、広げていきましょう。

里見…学長先生の柔軟な発想やお人柄に大いに期待しています。
多田…身が引き締まる思いです。本学の校歌は北原白秋の作詞ですが、歌詞を要約すると、教育ビジョンである「4つの人となる」

を見事に表現しているんです。本学も鴨台会もますます「自由の跳躍」をしていかなければいけませんね。今日はお忙しいところありがとうございました。



大正大学校歌 北原白秋作詞 山田耕筰作曲

晴れたり蒼空 若く若く 三光り蒼空 遠く遠く
流るる雲 輝くこの風 流るる雲 輝くこの風
まてまて 鳴き 華咲け 鳴き
まれよ 新生 華咲け 鳴き
自由の跳躍 独自の確立 頭はと果実 一なる精神
生かす生かす 我等生かす 生かす生かす 我等生かす
自然の快活 故郷を離れん 天守の本質 照らし進まん

ニ澄みたり蒼空 清く清く
梢のわが雲 緑のこの草
眺よ眺よ 鳴き
まれよ 新生
不動の信念 叡智の澄徹
識るる 識るる 我等識るる
宇宙の真理を 切に探らん

校歌の歌詞中の※は以下のものをあらわしています。

- ※1 中道 ※2 自灯明
- ※3 慈悲 ※4 共生

■ 校歌と「4つの人となる」の関連性

「4つの人となる」とは・・・

本学の建学の精神「智慧と慈悲の実践」を基本に新しい時代に対応した教育ビジョンが「4つの人となる」です。その4つとは、「慈悲」「自灯明」「中道」「共生」を意味します。

「慈悲」は他者を「生かす」ことであり、そのために「生きる力」（智慧）を養っていくこと。

「自灯明」は他人の言葉に左右されず、真実を頼りとして自らを確立する試み。

「中道」は相互に対立する2つの極端な生き方に頼らない生き方。

「共生」は大学という学びの場において、志を同じくした者が共に学び、それぞれの目標に向かって達成の努力をする人たちの集まりであって欲しいという願い。

新3号館には
2つの顔がある



大学広場側

銀杏並木に面して誕生する新設広場は新3号館1階のオープンな空間と風景的につながることで、新たな名所となるだろう



庚申塚通り側

庚申塚通りに面する新3号館。周囲と隔てられることなく開放されたイメージで、小広場を備えた通路はキャンパス中央まで通じる

来春完成!

「新3号館」その全貌

古き良き面影を残しつつ、モダンに生まれ変わるうとしていいるキャンパス。開学当初の様子を復元した正門、近代的な7号館、6号館（体育棟）の完成に続き、本学の新たな顔となる新3号館の建設が着々と進んでいます。この機会にぜひキャンパスに足を運んでみてはいかがでしょうか。

大学広報誌「On dai」（89号）より転載させていただきました。

昨年6月にスタートした新3号館建設も1年を経て、その佳境に入らんとしている。完成の暁には、本学の新たな顔として、そのモダンな姿を現すことだろう。ほぼ固まりつつある「新3号館」の全貌を出来る限りご紹介する。

2

016年の創立90周年を目指し、本学ではさまざまな改革が進んでいます。ハード面では正門と7号館、6号館（体育棟）がすでに完成しており、来春には新3号館が竣工を迎えます。新3号館は図書館を取り囲むようなL字型をしており、その片翼が庚申塚通りに面します。そのため庚申塚通りからも学内にアプローチ出来るよう、新たな入り口が設けられます。その入り口前には小広場（上図参照）が作られ、そこからキャンパス内へ伸びる屋

外通路と、新3号館の1階廊下は並行し、それによって、生まれる大きな一体空間は庚申塚通りからの通学の便を高めるだけでなく、周辺地域とのコミュニケーションの場としての利用が考えられています。新3号館と5号館の間に計画されている、地域社会への貢献を目的とする施設とその来館者用に新3号館1階廊下は社会・地域連携セミナースペースを設ける予定で、いま以上に本学と地域との密接な関係を作ってくれるでしょう。

庚申塚通りは旧中山道の賑わいを今に受け継いできました。この通りに新設される入り口は、本学と地域社会との結びつきを象徴する新たな「顔」となるはず。そして新3号館の正面にも、新たに広場が出現します。銀杏並木に面した正面を旧3号館よりも後退させることでできる広いスペースは大広場（上図参照）と言ってもいいでしょう。

棟内部でも、各フロア同士のつながりが重視されています。地階に入る放送・映像表現コース（表現文化学科）のスタジオは、外部からの遮音・遮光やセキュリティを考慮しながら、一部が1階エントランスホールの吹抜け部分から見える設計。これにより、エントランスホールがスタジオのギャラリー空間を兼ねることになります。2階（共有スペース）と3階（表現文化学科）も数カ所の吹抜けで結ばれ、分断されることなく上下につながり、とくに両階にまたがる「段床教室」はデザイン的にも活用的にもユニークなものとなるでしょう。

本学のコンパクトな立地の中での新設広場は貴重な空間。銀杏祭など、さまざまな催事への活用が期待できます。この広場は、庚申塚通り入り口の小広場と通路、そして新3号館1階廊下でつながりますが、さらにそれぞれの床材を共通にすることで、ひと続きの大空間にするという計画も予定されています。建物の外観も、周辺環境とのつながりを考慮したものになります。銀杏並木側・庚申塚通り側とも、1〜3階までの低層階は壁面に2層のガラスカーテンウォールを採用。館内においてもオープンな快適性が保たれるでしょう。

4階・5階にはそれぞれ歴史学科と仏教学科が入ります。その場所は前述した閲覧室を発展させ、本に囲まれたアカデミックな雰囲気を受け継ぎつつ、適度に区切られたオープン空間として学生の自習やグループワークなどに活用できるように考えられています。また5階の仏教学科は図書館と渡り廊下で結ばれます。これにより宗学の学生は、図書館5階にある勤行室へのアクセスが容易になります。



新3号館の外壁タイル部分は白・濃淡グレー・ベージュがランダムに重なったようなデザイン。それは横に積まれた書籍の様子や、地層ならぬ「知層」を連想させるものです。本学が伝統的に持つ閲覧室は、図書スペースとしてだけでなく、院生も学生もともに学ぶ場として活用されていること、他大学にはない特長とも言われますが、その流れはこの新3号館にも受け継がれ、外観にも現れているのです。



新3号館完成予想図を含めた全体像。従来の銀杏並木沿いに新設広場が加わることで、敷地内がゆとりある空間に生まれ変わることが分かる



(上右)副調整室から大型ガラス越しに見える撮影スタジオ。業務用レベルの機材が備わるため、本格的な映像番組作りも可能となる(上左)1階エントランスホール部分を銀杏並木側から見た図。右に見える吹抜け部分から地階の表現文化学科・スタジオの一部が見える。上の斜めになった天井は段床教室の底部(左)4・5階に入る歴史学科と仏教学科に共通する閲覧室の様子。両学科とも豊富な書籍を収めた書架がパーティションを兼ねている。窓の向こうには新設広場の風景や緑化されたテラス部分が眺められる予定

仏教学科、歴史学科、表現文化学科が新3号館に入りますが、その配置は各カリキュラムに最適なものとなっています。

地階は前述のとおり表現文化学科「放送・映像表現コース」を主とした実習スペースとして利用され、撮影スタジオ、副調整室、映像・音声編集室などの各専門室と、グループ作業用の制作アトリエが入ります。撮影スタジオなど各専門室で行われる実習作業は、制作アトリエからも見える配置になり、その実習作業をより多くの学生が見て体験できるようにという配慮です。

撮影スタジオに接する副調整室には大型の窓が設けられ、撮影時の風景が直接見えるようになります(上右図参照)。これら各専門室は、プロの制作スタッフが使用できる静穏性と専門機材を備えており、実際にプロの制作スタッフにも貸し出すことが可能です。例えばここでプロの番組制作などが行われれば、学生は実際の制作現場を間近で体験できるようになるわけです。そのためスタッフ室や道具置き場など、一般スタジオに必要な設備が配置されています。

エレベーターも大道具の搬入が可能なサイズとなり、このエレベーターから道具置き場から撮影スタジオという搬入動線は、人が移動する動線と完全に分けられています。安全性も十分に考慮されています。

このほか地階には、ホールを挟んだ反対側の区画に歴史学科の実習室が入ります。歴史学科は実習で歴史文化財や美術文化

財(復元品を含む)などを扱うため、各実習室は遮光や温湿度管理がしやすくなっています。

またこの区画には20万冊を収蔵できる図書館の増設書庫も入る予定です。そのためセキュリティにも配慮しています。

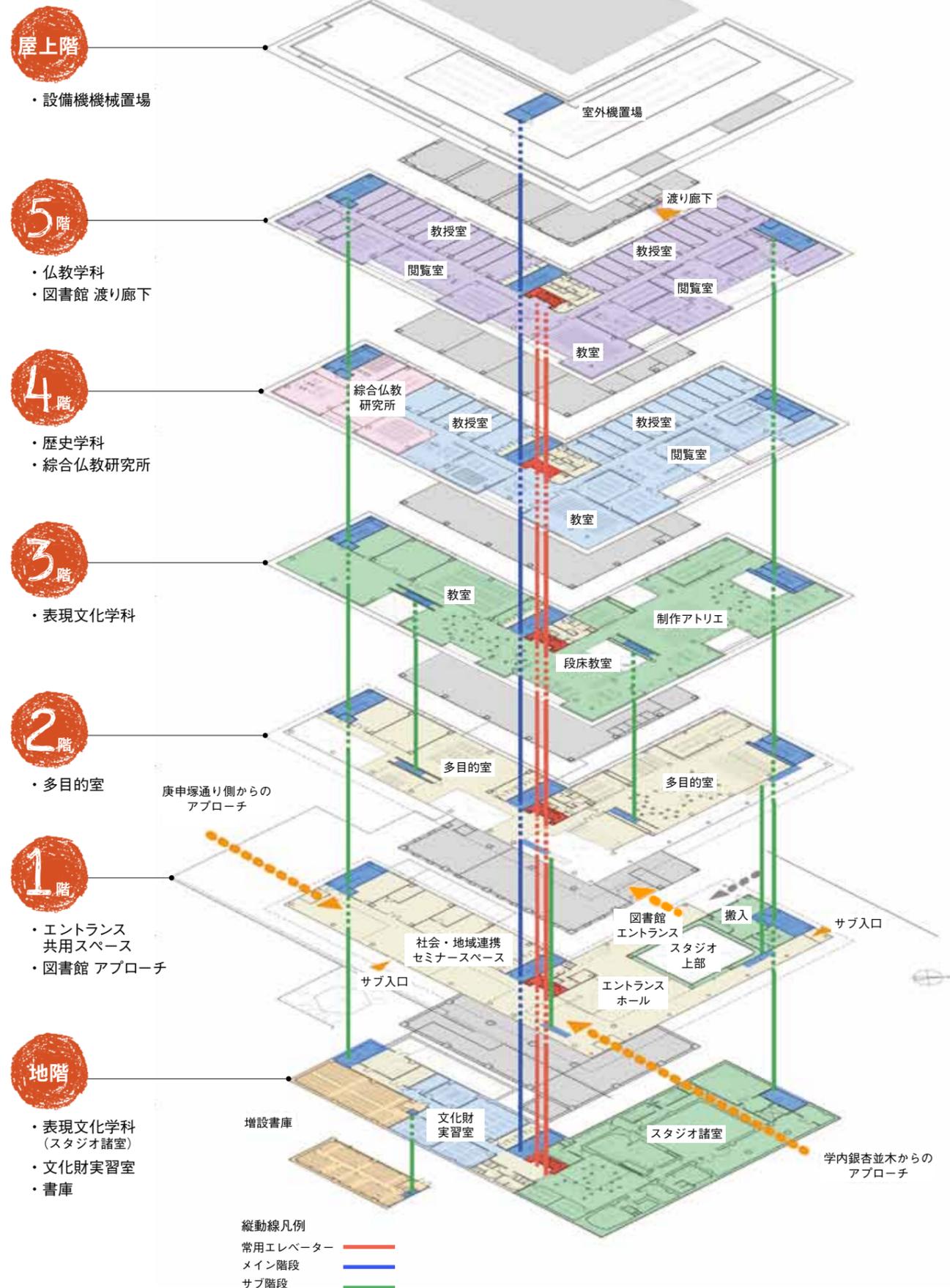
1階はいわばパブリックスペースです。ここは環境負荷の低減を目指した設備を備えており、とくに高い天井を持つエントランスホールには床放射冷暖房という空調装置が備わります。これは従来のように上部空間から空調するのではなく、壁に近い床面から冷暖気を送るといった最新設備です。

2階は各学科共有の教室が備わる予定です。3階は前述したように表現文化学科が入ります。そして4階に歴史学科、5階に仏教学科が入り、それぞれ閲覧室や教授室、教室が並びます。

歴史、仏教学科の、閲覧室の間仕切りには書架を使います(上図参照)。各書架は高さが天井まであるので静音性が十分保たれ、それでいて従来のように壁で囲ってやるわけではないので、各閲覧室同士がゆるやかにつながるわけです。

窓際には個人学習に適したキャレル(学習机)が備わり、集中して研究に取り組めるゾーンとなります。ガラスパーティションを適切に配置するので、互いにコミュニケーションを取りつつ、グループ学習などの声が邪魔にならない設計です。

新3号館フロア配置



クロージーズアップ 鴨台

—プロフェッショナルの魂—

大正大学の同窓生は2万6千余人。
その一人ひとりにドラマがあります。
今号では、東日本大震災の被災地で
事業再生を誓う地場産業のリーダーをはじめ、
社会のインフラを担う企業トップ、
転機を経て新たな事業に挑んだ起業家、
さらに憧れの職業に就き日々奮闘する若手に話を聞きました。
いまがあるのも、人との縁、
思いやりの心の大切さを学んだからこそという各氏。
それぞれの人生を生きる
「主役」たちのメッセージをおついて、
大正大学のアイデンティティを感じてみましょう。

活躍する同窓生のコーナーに登場していただける同窓生を募集します！
企業の第一線で働くビジネスマン、地域コミュニティのリーダーや、福祉事業に携わる方など、奮闘しながら前に向かって突き進むパワフルな同窓生からメッセージをいただきたいです。
自薦・他薦は問いません。
自社の紹介もできますので奮ってお申し込みください。
ご一報お待ちしております。

大正大学 校友会室 ▶ 03-5394-3031

活躍する同窓生

Masayoshi Sugata



Yukinori Takahashi



Hideaki Sakakibara



Takashi Shika



Chika Suzuki



3.11. 大震災 絶望の街に灯をともし男は 明治14年創業の 老舗を守る四代目



お馴染みの宮古名物「元祖菅田のいかせんべい」
明治から連綿と受け継がれてきた
のれんを守る四代目菅田正義は
未曾有の大災害にも屈せず
凜とした眼差しで老舗再生を決意したのである

有限会社すがた 代表取締役
菅田 正義 Masayoshi Sugata [1982年3月 文学部文学科 卒業]

街が消えた日

3月11日午後2時46分。その時、私は海岸に面した当社の工場にいました。今まで経験したことのない大きな地鳴りと激しい振動。安全な場所でもやり過ぎしながら、「これはとんでもないことが起きている」と確信しましたが、現実には、私の予想を遥かに凌駕したものでした。その内実は皆さんもご存知のことでしょう。そう、東日本大震災です。

「津波が来るぞー！逃げるー！」街中で騒々しく響きわたるサイレンに、緊張感が一気に高まりました。全員が工場の外に出たか出ないかというタイミングで、工場は生き物の様にうねり迫る津波に飲



宮古市の大津波が押し寄せ、工場・店舗は壊滅的被害を受けた

まれ、瓦礫の藻屑と化していきまされた。その様に一瞬気を取られたせいで、すぐ目の前まで押し寄せてきた津波。私たちは迫り来る死神の手を振りほどく様に、全速力で高台を目指しました。その後、高台に着くまでのことはあまり覚えていません。

難問山積 日常が失せた日々

幸いなことに社員も身内も、無事に避難することが出来ました。その後津波は引き退きましたが、街は壊滅状態。約2週間にわたる避難所暮らしが余儀なくされました。「これからどうなるんだ...会社はどうなっているんだ...」そう思いながら配給の列に並び、各地から寄せられる支援物資にただただ感謝する毎日でした。

避難生活が終わると、真っ先に会社に行きました。本社は汚泥まみれの半壊、工場も鉄骨だけになり、もぬけの殻。周りは瓦礫の山、山。折れかけた心と疲れきった身体に鞭を打って、私はとにかく片付けを始めることにしました



いかせんべいの工場内の様子。一枚ずつ丁寧に作られているいかせんべい。復興にむけて懸命に作業を行っています。

か。いかせんべいはたちまち売り切れ。その後も多くのお客様にお尋ねいただき、ありがたくも品薄が続いている状況です。

もうだいぶ昔になってしまいましたが、大正大学在籍時代には「縁を学ぶ」という言葉を仕切りに耳にしていた記憶があります。こんな状況にある今、少なからずその意味を理解できるようになった気がします。家族や友人、社員のみんなや取引先の皆さん、お客様や応援のメッセージを寄せてくれる皆さん、そして大正大学を通してつながる皆さんとの縁。それらの一つひとつに感謝の念を捧げずにはられません。

大震災直後という時期を終え、復興に向けて強い意志で活躍していた皆も、少し心に疲れを見せてしまう時期です。こんな時こそ縁を大切に、皆で支え合っていきたいですね。

明治来の人気の味を未来へ そしてさらなる発展を

私たちの作る「元祖菅田のいかせんべい」は、明治の時代から長らく皆様に親しまれており、中には「おじいちゃんから子どもまで、家族みんながこの煎餅が好きで買ってきた」と言っていただけのお客さままでいらっしゃいます。

私たちはそんな伝統のお菓子を

が、とても仕事を再開しようという気分ではありませんでした。「これじゃダメだ...絶対ムリだ...」そんな思いを抱きながら、瓦礫をどけてみると、ふと見慣れたものが泥の中から出てきました。いかせんべいを作るのに必要な焼き型です。柱に引っかかって、奇跡的にここに留まっていたのでしよう。

いざ再生に向けて 一歩一歩少しずつ

働ける状態の従業員を集め、急ピッチで工場を使える状態に戻し、5月に入った頃には焼成室に火入れすることが出来ました。とはいえ、機械は壊れてしまったので全部手作り。稼働率は平時の3分の1程度です。全部手で作るのには、私も含め、社員の誰もが初めての体験。まずは商品レベルのものを作るまでに四苦八苦です。

そんなドタバタのある日、大学の井上諭先生からお手紙をいただきました。「ゆっくりとまた創っていきましょう。縁も絆も永い」。そう丁寧な書かれた手紙は、私にさらなる活力を与えてくれたと感じています。また、メディアの皆さんにも多く取り上げていただいたことで、全国から応援の手紙やFAXをいただいたことも支えになりましたね。

再開の5月20日。少々緊張して迎えたその朝、店舗に到着すると、なんとお客様が行列を成して開店を待ちわびてはありました。

津波の被害から難を逃れたいかせんべいの生命線「焼き型」奇跡的に見つか、復興へと歩みだすきっかけとなった。(写真は正時代から受け継ぐ焼き型)

Information



岩手県宮古市出身。明治初期から伝わる宮古銘菓「元祖菅田のいかせんべい」を販売する有限会社すがたの四代目社長。現在、東日本大震災で被災した会社の立て直しに全力を注ぐ。



40歳未経験で起業した会社を 瞬く間に約3300人の会社に 成長させた業界の風雲児

人間の弱さ強さを知り、「つながり」の大切さを熟知する「人そのものの顔」先見性と決断力を携えた「敏腕経営者の顔」。高橋行憲さんは二つの顔を持つ人の心を理解し新しい発想を実現する、その類希なる力でいま福祉業界の急先鋒として活躍しているのである

(株)ウイズネット代表取締役社長

高橋 行憲

Yukinori Takahashi [1977年3月 文学部哲学科 卒業]

サービスは「つながり」そして他者の想いに寄り添うこと

在学時から、社会の中で自分の力を試したいと思っていました。その想いから、卒業後すぐにライター工場の経営を開始。しかし、2度のオイルショックにさいなまれるなどタイミングにも恵まれず、その後保険会社で働くことになりました。その会社で学んだことは、後の私にとって大きなターニングポイントとなるものでした。保険の営業など、お客様は待ついても来ませんし、気に入らなすくお買い上げという商品でもありません。頭を使わなければいけない。然るべき時間をかけなければいけない。それはお客様の立場に立ち、一人ひとりと向き合うという事です。□で言うのは簡単ですがこれが難しい。しかし今思えば、それもやりがいの一つでしたね。

平成10年頃、私は改めて独立を考えていました。高齢化社会に向けて、福祉の法的環境整備が推進されはじめた時期。やるなら福祉。それは揺るぎなかったのですが、まったく畑違いです。それに一度は起業に失敗している身、恐れがなかったと言えはウソになりますが、私は決意を固めました。「やってみよう...いや、やろー」と。

40歳オーバー、未経験からの会

国内・海外に拠点400ヶ所以上 水道事業を核に「水」という 無限のビジネスに挑む企業トップ

東日本大震災を契機に、あたりまえの生活の有難さを実感したそれを支えている重要なインフラの一つ「水道」安心な水を社会に提供したい。もっと豊かな未来を創っていききたいそんな思いで、私たちは事業に情熱を傾けている

(株)ウォーターエージェンシー代表取締役社長

榊原 秀明

Hideaki Sakakibara [1977年3月 文学部哲学科 卒業]

大正大学で培われた経営観、人生観

水は生命の源。古くて新しいテーマであり、ビジネスとしても大きな可能性を秘めています。わが国の水道事業はもともと公衆衛生を目的に始まりました。自治体が主体となつて責任を全うするという考え方があつたのもこのためです。当社は40年以上にわたり、上下水道処理施設の運転管理事業を受託してきました。近年、行政改革の流れを受けて、コスト削減、民間活力導入が層推進され、当社の実績やノウハウが脚光を浴びています。水道事業にどのような民間の手法を取り入れていったらいいか。コンサルティング事業の展開もますます楽しみです。その一方で、消費者にやさしい水を提供したいと、約30年前、業界に先駆けて浄水器の開発に着手しました。さらに、海外からのプラント・インフラ建設等における調査の受注も増え、中国、インド、ベトナム、インドネシア等に展開しています。水という根源的なテーマを扱う誇り。無限に広がるマーケットを、階段を一步一步登るように開拓・改革していく喜び。仕事が楽しく、退屈する暇なんてありません。自分の抛りどころとなる対象を持っていることをとても幸せに思っています。

Information



ご尊父の事業を継承し、社員約3,500名、国内外400ヶ所の事業所を擁するまでに発展。上・下水処理施設などの総合管理、各種水処理プラント工事ははじめ、浄水器・薬剤などの販売も手がけている。

在学生の皆さんにも、自分が全力を傾けられる対象、「目標」「ビジョン」をぜひ持っていただきたい。それは、夢や憧れといった浮ついたことではなく、生き方そのものの、「精神性」までも含みます。まさに、それが学べるのが大正大学なのです。「智慧と慈悲」という建学の精神を徹底し、今まで以上に多くの受験生に期待される大学になって欲しいと思います。

当社は社是として「和」を掲げています。「和」は「なごむ」とも読みますし、円い「輪」という意味もあります。つまり、人と人の関係性を非常に安定的に象徴しているわけです。マネジメントの基本は「和」であり、「人」であるとは私は考えています。学生時代、仲間とともに著名人を招いて勉強会を開き多くの人と交流を深めた

り、吉岡義豊先生、牧尾良海先生、安居香山先生をはじめとする諸先生方から仏教精神について薫陶を受けたことが、私の経営観の礎になっています。最近、ドラッカーの著作を読みましたが、その思想や哲学に仏教と共通することが多く、我が意を得たりという思いがしました。

水という公共性の高いビジネスは、ただ利潤を追求するばかりでは社会に受け入れられません。社会から評価をいただいた結果、その対価として収益を得るのです。人から離れ、IT、数字至上主義に傾く現代の経営スタイルには疑問を感じざるを得ません。今こそ、大正大学の同窓生が、それぞれの立場から、建学の精神、仏教の心を発信していかなければならないと思います。

Information



代表を務めるウイズネットは、中国の大連に事業所を設置。ビジネスフィールドを拡大し、さらなる成長を図っている。現在では本学卒業生であるスタッフも共に働いている。先頃、自身2冊目となる著書「起業プロフェッショナルの条件(幻冬社)」を出版した。



社起し。当然専門知識もノウハウもありません。しかし、未経験だからこそ本当に利用者の立場に立つて、求められる福祉を実現できるのではないかと考えていました。こうやって、「必要な人に必要なサービスの提供」をコンセプトにした、株式会社ウイズネットがスタートしました。

まず、真に利用者本位の福祉を体現するべく、施設サービスも在宅サービスも一手に担う、ワンストップであらゆる介護サービスが行える拠点となることを目指しました。また、たやすく手を広げず地域密着の福祉にこだわること、その地域にとつて他に変え難い存在となることにごこだわったのです。その結果、一定の時間はかかったものの、多くの皆様に支えていただけた環境を作ることができ、現在では181の事業所、約3300人の従業員を持つ企業にまで成長しました。

「人のつながりを大切にする」。

大学でとことん学んだことですが、恥ずかしながら当時は漠然と理解しつづも実感がありませんでした。しかし、社会の中で実際に人に触れ合い、その恩恵を受けてきたこの数十年の中で、徐々に意味が分かってくる気がします。福祉の仕事が始めてからはなおのことです。もちろん、私にとって大切なつながりの一つに大学を通じたつながりがあります。鴨台会を通してつながっている仲間が助けられることも多くあるし、私も困っている人があれば協力したい。

また、そのつながりは年代も超えるものです。学びの場を共にした、時間を越えた友がいるということ。こういったつながりは、社会の中ではなかなか得られません。大学にはこれからも「大正大学だからこそ」できるつながりというもの、ぜひ活発に拡げていただきたいと思っています。

約25倍の教員試験を突破 目指すは「学ぶ喜び」を 伝える伝道者

興味を入り口とした授業に徹底的にこだわるのが、四家さん流の教育スタイル
決してまだ十分な実績を積んでいる訳ではない
彼の授業に、誰もが目を輝かせて聞き入るのは何故か
知的好奇心を満たす魅惑の授業の秘密に迫る

埼玉県越谷市立中央中学校 教諭

四家 敬士 Takashi Shika [2007年3月 文学部歴史文化学科 卒業]

**学ぶ者の想いに立つ
教育者を旨す決意**

人生も教育も興味ですべて。
私が歩んできた道の中で導き出した答えの一つです。卒業以来、さまざまな学校の現場を渡り歩き、臨時教員として活動していました。同時に、教員採用試験には何度もチャレンジしていましたが、なかなか夢を実現することができなかったのです。

「もともと教師になる素養がなかったのでは？」「もう、違う仕事を考えようか」そう自分に問いかける事も度々ありました。しかし、どうしても教師になりました。私は最大限の努力を試験につき込み、「これでダメなら、自分には無理だ。終わりにしよう」という心意気で2010年度の試験に挑みました。結果は合格。それを知った時は、本当に体の力が抜けて倒れ込んでしまいました。現在は、中学1年生のクラスの担任として、日々刺激的な毎日を送っています。

在学中は安藤孝二先生に師事し、歴史の知識に裏付けを加える、発掘調査活動に夢中になっていました。休暇があれば各地の発掘現場に出かけ、古い書物につづられた時代の揺るぎない証拠品に胸を躍らせていたものです。

発掘は大きく分けて2種類が

舞台は5つ星を 獲得した名ホテル お客様は世界中のVIP

世界を代表するホテルの一つ「グランド ハイアット 東京」
各国要人も宿泊するこのホテルで、鈴木千佳さんは至高のサービスとは何であるか、日々学び続けている
まだ修行中の身とはいえ、努力と忍耐、そしてホスピタリティを胸に仕事に打ち込むその姿には
近い将来現場をリードする逸材へと成長する素養を感じずにはいられない

グランド ハイアット 東京 オーダーテイカー

鈴木 千佳 Chika Suzuki [2007年3月 人間学部人間福祉学科 卒業]

**「ホスピタリティの原点は
「慈悲の心」、「福祉の心」**

実は大学で福祉を学んでいた頃は、私がホテルでお客様をお迎えする仕事に就くとは思っていませんでした。共通するのは人と向き合い、最高のサービスの提供を目指す、「ホスピタリティ」という考え方。たくさんの方の役に立つ仕事がしたいと考えていた私は、福祉の世界にも大きな魅力を感じていた一方で、人々に非日常的な気分を提供するホテルでの仕事にも魅力を感じており、最終的にホテルで働くことを決意しました。そんな憧れの職業に就いたのも束の間、そこには想像を超える忙しさが待っていました。現場ではスタッフの誰もが東奔西走。さらにさまざまな点で粗のある私たち新入社員は、上司から厳しい指摘を受ける毎日が続きました。

当初約90人いた同期入社仲間には、いまや20人程度になってしまいました。入社5年目を迎えた今、あの頃を振り返ると、その仕事のひとつつや指摘のすべてが、最高のサービスを提供するために不可欠なことばかりだったと感じています。

現在は、電話でルームサービスの受発注を行う「オーダーテイカー」というポジションに就いています。ルームサービスを楽しむ時間はただ「お腹が空いた」「喉が渇いた」などの

欲求を満たすだけの時間ではなく、自室でリラックスする大事なひととき。そんな充実したプライベートタイムの実現をお手伝いするのが、私の仕事です。

注目の電話を受ける際、私たちは目の前で接客させていただく時と同じ姿勢でオーダーを受ける様に心がけています。別に見える訳ではありません。しかし、声は内容だけではなく、相手とどんな姿勢で向き合っているかということも必ず伝えるものです。もし少しでも緩んだ態度で対応をしようものなら、必ず電話を通してそれはお客様に届くのです。

はじめてこの部署に配属された当初は、緊張の連続でした。日本人のお客様でもドクドクするの、英語で対応することが欠かせない外国人のお客様となると大変。「心臓が口から飛び出るほど」とはこの事かと。

一度、緊張のあまり英語でシーザー

サラダをご注文されたお客様に、はさみ(シーザー)を手配しようになつたことがあります。重大なミスにつながるものではありませんでしたが、「このままではいつか大きなミスをしてしまう、生半可な英語では駄目だ。しっかりと英語を聞き取る力を身につけなければ」と決意するきっかけになりました。

「すべてのお客様に対して、最大限の優しさをもって接したい。私が仕事を通して実現したいと考えているモットーです。こう思い立つ起点には、心を大切に教えるや福祉という専門分野など、在学時に学んだ教員の学びがあると感じています。」「大正大学で学んだ、福祉を学んだ私だからできる接客がある」。そう信じて修行を重ね、VIPからファミリーまで、どのようなお客様にも変わらず穏やかな気持ちになつていただけるサービスを提供していきたいと思えます。

Information



全世界に478の施設を擁するハイアットグループ「グランドハイアット 東京」に入社。ホテル直営の日本料理店、料飲部に配属。現在ルームサービスのオーダーを受発注する「オーダーテイカー」として活躍中。

Information

勤務されている中学校舎



栃木県佐野市出身。2010年、約25倍の倍率をくぐり、埼玉県の中学校教員採用試験に見事合格を果たした。在学中は小此木ゼミに所属。また安藤ゼミの、発掘調査にも参加していた。

ります。歴史的な価値があり、調査結果が永続的に残る「保存発掘」。土地開発のために実施され、多くの場合発掘されたものも破棄される「行政発掘」。日本の発掘調査は99.9%が後者ですが、安藤先生は「後世に残るものの方が、君たちもやり甲斐があることですよ」と、私たちに全体0.1%にあたる保存発掘の現場だけを担当させてくれました。この心遣いには私も発奮したものです。学ぶ者の情熱を支える姿勢、それは安藤先生から学ばせていただいた、教育者として大切にしたいことの一つです。

また、滝沢和彦先生には、教員を目指す者として必要なものをさまざまな角度から教えていただきました。「教職員研究会」の設立にも協力していただき、模擬授業の指導案を添削していただいたほか、近隣の中学校で、現場の授業を継続的に見学できる環境を作っ

ていただくなど、教職を目指す者にとって、充分すぎる学習環境を整えてくださり、今も感謝の念を忘れずにはいられません。

現在、教室のみならずの興味を持たせ、意欲を高めるべく、試行錯誤を重ねる毎日です。たとえば、エベレストで採れた塩の固まりを教室に持ち込んで、その山がかつて海であったということを学ぶ授業をすると、みんなの目がガラリと変わりました。時代や場所を遥かに飛び越えてなにかを提示する物は、やはり人を惹き付ける大きな魅力があるのでしょうか。

発掘に忘我する大正大学での日々は、学ぶ側の興味を大切にすることがいかに不可欠な事であるか知る、貴重な時間であったと感じています。これからも教科書の上を飛び越えて、歴史を肌で感じる喜びや魅力を、次の世代の子どもたちにも伝えていきたいですね。

■ 開講校舎のご案内

オープンカレッジは2箇所で開催しています。
ひとつは同窓生の皆さんも親しみのある「巣鴨キャンパス」、もうひとつはJR浜松町駅のすぐ近くに立地する「浜松町サテライト教室」です。



巣鴨キャンパス

- 都営三田線「西巣鴨駅」地下鉄 A3 出口より 徒歩 2 分
- JR「板橋駅」東口より 徒歩 10 分
- 都電荒川線「新庚申塚駅」又は「庚申塚駅」より 徒歩 7 分
- 池袋駅東口から都バス「堀割バス停」より 徒歩 2 分



浜松町サテライト教室

- JR・モノレール「浜松町駅」北口より 徒歩 3 分
- 都営大江戸線「大門駅」地下鉄 B4 出口より 徒歩 2 分
- 都営浅草線「大門駅」地下鉄 A2 出口より 徒歩 2 分



オープンカレッジのすすめ

同窓生のための 教養ラウンジ

大正大学のオープンカレッジは、仏教精神の建学理念に基づき「こころ」を育む講座を中心に昭和 43 年にスタートさせて以来 40 年を超える歴史があります
あらゆる人へ開かれた「知識提供の場」を目指すオープンカレッジでは
仏教のみならず、文化・教養、歴史、人間探究、芸術などを 2011 年度は 35 講座を開設しています
同窓生の皆さん、ぜひオープンカレッジの講座を受講してください
「生きる力」、「養う心」、「創造する芽」、心豊かに学んでください

← オープンカレッジ体験談

学びきっかけはさまざま。そこから、知識や出会いが広がっていきます
オープンカレッジには幅広い年齢の方々が集い、再び「学生時代」を謳歌しています
学びの機会を得て充実した日々を過ごされている受講生の声をご紹介します



講座：「篆刻実践講座」

■ ロールモデル【星野 智教 1997 年 3 月 文学部史学科 卒業】
埼玉県吉見町の金剛院の住職にお会いしたことがきっかけで篆刻講座を受講しました。住職は年齢が 40 代半ばで書は玄人はだし。篆刻も経験が豊富な方で、自分もそんな人になりたいと

いう思いから、篆刻を学びました。浜松町サテライト教室で受講しましたが、講師の池田先生の話はとてもわかりやすく楽しい講座でした。

篆刻を学んで役立ったことがあります。それは京都総本山智積院で修行中にご指導くださった佐藤良盛先生が亡くなり、弔問のため山形蔵王まで行った時のことです。先生の娘さんが「亡き父が本山から頂いた書がたくさんあるのですが、とても難しく読めず、またあなたが書かれたのか分からない」という話がありました。たまたまそこに居合わせた私とその書の内容と落款を拝見して、ある程度説明したところ、大変喜ばれました。その時役に立ててよかったという思いと、篆刻の学びの成果を強く感じました。

大学時代、生涯教育という言葉と井上孝孝先生に、浜田佳一先生にはスキーを教わり、おかげさまでスキーの腕前は青森県八甲田山に山スキーに行けるまでになりました。身体の生涯教育はスキー、頭（脳）の生涯教育は篆刻となりそうです。本校の客員教授の養老孟司先生は身体の動きと脳の動きの関連性を指摘しています。どんどん体を動かせばそれに反応して脳もより効率的に働くということです。スキーのように篆刻でもレベルアップを目指し焦らず進んでいければと思っています。

■ 2011 年度オープンカレッジ開講講座

巣鴨キャンパスと浜松町サテライト教室で行われているオープンカレッジの講座をご紹介します!他にも多くの講座をご用意しております。受講料につきましては講座により異なりますので、本学オープンカレッジのホームページをご確認ください。

巣鴨キャンパス 2011 年度開設講座例	浜松町サテライト教室 2011 年度開設講座例
<p>いにしへのロマンを感じたい! ●文化講座 (4 講座開設) 本学の文学部が誇る日本の古典文学や、四千年の歴史を誇る中国文学・歴史に触れて、現代のルーツを探る旅に出かけましょう。</p> <p>自分で芸術作品を作りたい! ●芸術講座 (3 講座開設) 伝統と歴史を誇る書道、優雅な仏教美術である仏画など、周辺の歴史や文化を学びながら実作する実技講座です。楽しみながら作品を作ってみてはいかがでしょうか。</p> <p>仏教を「いち」から学びたい! ●仏教講座 (6 講座開設) 本学オープンカレッジの大きな特色である仏教講座。天台宗・真言宗(豊山派)・真言宗(智山派)・浄土宗の四宗派を擁する本学ならではの講座では、わかりやすく、やさしく学べるよう幅広く展開しています。</p>	<p>名誉教授の講義を受講したい! ●シリーズ講座 名誉教授に聞く～学びの真髄～ (8 講座開設) さまざまな分野で、今もなお研究の最前線にいる個性豊かな本学名誉教授の先生方。本年度は仏教、歴史、福祉、家族などをテーマに講座を開講しています。</p> <p>書道の楽しさを味わいたい! ●書道カレッジ (毎日新聞社後援) (14 講座開設) 中国や日本の数々の名蹟などの芸術性の高い書から、生活の中の実用的な書も気軽に学べます。受講生のレベル・学習目的に応じて指導しますので、筆を持ったことがない方でも安心して受講できます。基礎から創作まで、仮名書、写経、篆刻、水墨画などの実技講座や東洋の歴史や文化を学ぶスペシャルセミナーをご用意しています。</p>



大正大学本尊・阿彌陀如来像（重要文化財）

講座：「平安時代の仏教説話を讀む」 「仏教の戒律 - 初期仏教から密教へ -」 「弘法大師空海の足跡と業績について」

■ 学ぶ楽しみに目覚める時【番場 實】

学ぶことの喜びや楽しみに目覚めるのは、往々にして、学校教育を終えた、遠く後のことです。でも、その時では「後の祭り」、社会生活の中で、その機会を求めるのは簡単ではないし、学ぶ対象も仕



講座：「書道カレッジ・スペシャルセミナー」

■ 大正大学らしい講座【高橋 久美 1982年3月 文学部文学科卒業】

私は書道カレッジ・スペシャルセミナーに毎年参加しています。年10回の講座は、1回1時間半で完結し、毎回専門の先生による“スペシャル”な講座です。先生方は特別な専門知識を持たない受講

事がらみに迫られてと、動機不純であることが多い。

結局のところ、《学ぶ》ことの真の喜びや楽しみに浸ることが出来るのは、仕事から解放された退職後しかないように思います。

さて、以下は私の大正大学の公開講座を受講しての感想です。

最初、仏教への関心から、「仏教講座」に飛びつきました。もう、10年にもなるでしょうか。しかし、経典中心の入門講座は、一巡すれば終わり、問題を掘り下げることが望めませんでした。同じ仏教系の某大学は、宗派は、宗派中心を強く打ち出して差別化を図っています。講師について辛口に批評させてもらえれば、永年講義に押れた、いわゆるベテラン講師に、紋切り型の内容空疎なのが見受けられました。

しかし『華嚴経』の講義は未だに印象に残っているし、『法華経』の「薬王菩薩本事品」焼身供養の段では、教室全体が一瞬、異様な空気に凍りついた記憶が新しい。

「文化講座」では、高校時代からの興味を引きずって、王朝文学系の講座を、今も聴いています。当時の人々にとって仏教とはいかなる存在であったのか、を文学のなかに探れないか、が目下の関心事です。

78歳のゴヤが、デッサンに「おれはまだ学ぶぞ」と詞書したとか、この気概にあやかりたいものです。

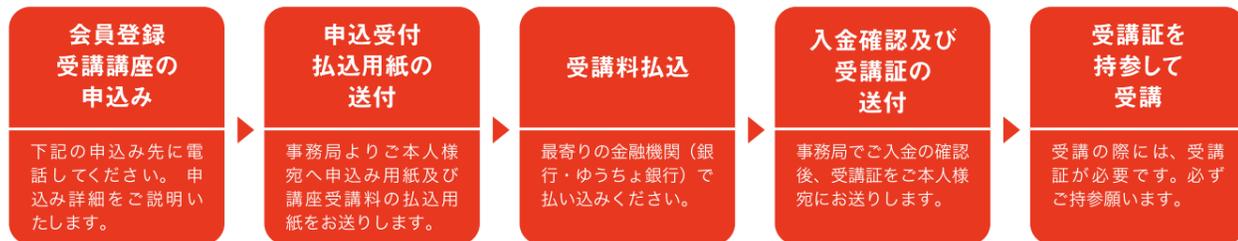
生が少しでも解かりやすいように講義してくれます。そのため50人も入れればいっぱい浜松町サテライト教室は、いつも熱気に溢れています。

今年のテーマは“東洋の歴史と文化を語る”で、第1回目の講座は大正大学教授高良哲先生の“増上寺と将軍徳川家”でした。今年のNHK大河ドラマ“江”に関連づけて、増上寺の歴史を解りやすく説明していただきました。

第2回目の“第六十三回毎日書道展特別展示 宇野雪村の美”では、講師で奎星会理事長の掘吉光先生による前衛書の席上揮毫が、大変興味深かったです。私はこの夏、東京国立博物館で“空海と密教美術展”を観て、千二百年の歴史を生き続ける真言密教の世界とその美しさに感動しました。第5回目の“弘法大師空海の書”松本宜響先生の講座も、もう一步空海の世界に近づけるような気がして、とても楽しみにしています。また第6回目の“伝教大師最澄の書”の講座は、大正大学同窓生の奥山元照先生のお話が聴けるので、違った意味でも期待しています。これからも大正大学らしい講座がどんどん発信されることを楽しみに待っています。

■ 同窓生の皆さまのお申込みをお待ちしております。

一申込み方法から受講までの流れー 同窓生の皆さまの会員登録は無料です



大正大学キャリア教育研究所
03 - 5394 - 3052



<http://www.t-map.net/open/index.html>

大正大学オープンカレッジ

検索



※写真はイメージです

講座：「シルクロードの歴史と文化」



増上寺

講座：「子の存在、親の存在、そして家庭とは」 「増上寺と将軍徳川家」

■ オープンカレッジを受講して【金澤 悦子 在学生父母】

昨年、娘が大正大学の学生になったのをきっかけに誰でも受講できる「オープンカレッジ」がある事を知り、私も受講してみようと思いました。



学内にある釈迦像

講座：「釈迦の生涯とその思想」「寛永寺」 「あなたも彫れる仏像を作る」

■ オープンカレッジを受講して【小倉 幸治 2011年3月 人間学部仏教学科卒業】

私をはじめ大正大学のオープンカレッジを受講したのは、平成18年春、榊義孝先生の『お大師さま入門』講座でした。榊先生の分かりやすい講義に魅了されて、仏教を基礎から学びたく

■ 集中して勉強する素晴らしさ【楳原 大輔 2004年3月 国際文化学科卒業】

この講座を受講するキッカケは、巣鴨キャンパス内でのオープンキャンパスで行われていた講座「シルクロードの歴史と文化」（小林伸二先生）を目にしたことからです。とても興味をかきたてられ、大正大学のサークルOBとして、受講申込みをしました。受講にあたっては、卒業生の特典（会員登録料が無料で、受講料も安くなる）とあると聞き、すぐさま申込み手続きをしました。

近代以前の東西交易。歴史と文化に触れて改めてそのスケールの大きさを痛感しました。とても興味のある分野なので、じっくり脳目もふらずこの講座に夢中することができ満足感でいっぱいになりました。この講座を受講している方々の様々な意見を聞くことができ、またとても大きな成果でした。またそういう方々と交流ができたことも喜びです。一人で学ぶことよりも大勢の方々と学ぶことの方が刺激もありとても楽しいことです。これからも興味のある大正大学オープンカレッジ講座に参加していきたいと考えています。

『子の存在、親の存在、そして家庭とは』の講座で、先生は、「愛された事の子は愛し方を知らない。育児は育自であり、教育は共育である。」と、何度も話されていたのが今も心に残っています。

身近な生活の場で、親、子をめぐる諸種の問題現象が起きています。日本と米国の社会学を比較して、日本では、社会問題が起きてからの研究しかされていないというのも興味深いお話でした。人間関係づくりの脆弱性が、ひきこもりやニート、孤独老人が増えることに繋がり、大切なのは家族関係を気付く築く、など問題解決のヒントを沢山預けた忘れられない講座でした。

『増上寺と将軍徳川家』の講座は日本史が苦手なので受けました。徳川家のルーツや増上寺との関係などを教えて頂きました。江戸と言ったら、八百八町、現在の都内23区辺りを想像していたのですが、当時は江戸城周辺のごく狭い地域だったことを知り、楽しい時間でした。

オープンカレッジの楽しみの1つは、家ではなく大学で教授の講座を受けられる事だと思います。私の好きな文学や音楽、ヨーロッパ中世の講座を受講できることを願いつつ、娘が成長しても学びの時間がとれる様、努力していきたいと思っています。

なり、大学入学を志し、翌19年の春、50年ほどのサラリーマン生活を経て、仏教学科に入学し、今年の3月に卒業することができました。

4年間の在学中、多くの先生の講義を受けましたが、特に印象に残った授業は、ひろさちや先生の『日本文化史』でした。先生は「日本は仏教国と呼ばれているが日本古来の信仰である神道と融合したものである」と説き、それを「やまと教」と呼び、「やまと教」がいかに成立し、どのような宗教であるかを明らかにされました。

平成23年春、開講のオープンカレッジでは、ひろさちや先生の『釈迦の生涯とその思想』があり、現在、釈迦の生涯をたどりながら、その教えと思想を学んでおります。ひろさちや先生の学部での講義と、オープンカレッジでの講義と、双方受けて感じたことは、先生の講義に対する姿勢には分けへだてなく、とても熱心に授業されていることです。オープンカレッジでは大学の学部の講義と遜色のない、内容の濃い授業が受けられます。しかも、誰もが手軽に学ぶことができますので、皆さまにお勧めです。オープンカレッジで仏教との出会いを得、大学で仏教の真髄を学ぶことができ、その後も引き続いてオープンカレッジの仏教講座を受講できることにとても幸せを感じています。



このコーナーでは、同窓生の皆さまの「くらし」に求められるスキルや力について
大正大学教員が解説していきます。オフィス・家庭など
さまざまな「くらしの場面」で役立てていただければと思います

傾聴について About Listening

今回のテーマは「傾聴」です
今回の東日本大震災を機に、日常用語ではあまり使わないこの「傾聴」という言葉を耳にする機会が確実に増えました
例えば、岩手日報（2011.7.23）の記事では、「聞くことひたすら 被災地で傾聴ボランティア活躍」と題し
仮設住宅入居者の話を聴くボランティアの活動が紹介されています
以下では、まだこの「傾聴」という言葉がまだ耳慣れない読者の方を想定し
臨床心理学の領域ではどのような意味を持つかを中心に、「傾聴」とその関連概念について紹介していきます

Listen 1

カール・ロジャースの来談者中心療法における「傾聴」

臨床心理学の勉強をしたことがあるならば、「傾聴」と聞いて思い浮かぶ心理学者として大部分の人がカール・ロジャース（C.R. Rogers, 1902-1987）の名前があがると思います。彼が米国で提唱し実践した「来談者中心療法：Client Centered Approach」の理論は、わが国ではカウンセリングだけでなく様々な相談の基礎となっています。教育現場の生徒指導や教育相談の理論にも大きな影響を与えているので、どこかでこの理論に基づくアプローチを知らずに受けている人も多いと思います。

彼の理論はその長い活躍の間に実はかなりの変遷を遂げましたが、学問的に最も画期的だった点は、相談された事へどう返答するか、つまり何をアドバイスあるいは解釈するかの前に、何らかの悩みがあって相談する側（来談者）と相談を受ける側（カウンセラー）の「関係」そのものに注目したことにあります。すなわち、来談者とカウンセラーが“よい”関係を築くことができれば、その関係そのものが来談者を支え、問題解決に至る力をもたらすという考えです。彼がそう提唱した当時は、専門の知識を持つカウンセラーが来談者の悩みを解決する、あるいは導く、という相談モデルが浸透していました。そのためカウンセラーが問題解決をするのではなく、「関係」によって来談者本人が問題解決をする力を発揮する、とした点は当時は特に斬新だったといわれています。そして両者がこの“よい”関係に至るため、アドバイスや解釈の代わりにカウンセラーが行うとされたのが「傾聴」でした。



Listen 2

「傾聴」するとは「共感」と「受容」との関係から

それではどのような話の聴き方が「傾聴」なのでしょう。来談者中心療法においても、いわゆる「傾聴技法」と呼ばれる話の聴き方が存在します（例えば「繰り返し（内容の再陳述）」、「感情の明確化（言い換え）」、「支持」、「質問」）。今回はそのような技法の詳細は説明せず、「共感」と「受容」という2つのキーワードとの関係から「傾聴」について考えて行きます。

話を熱心に聴き傾聴する時、相談を受ける側は「共感」や「受容」を行っていると考えられます。しかし、何でも相手の話に合わせて「そう、その通り」「大変だったね」と相槌を打つことは異なります。前者の「共感」は、相談する人の私的世界をあたかも本人であるかのように感じ取り、その上でそれを相手に伝え返してゆくことです。しかし、自他未分化な「同情」とは異なり、「あたかも」という言葉が付くからには、相手と自分の違いや距離が意識できている状態を指します。そしてこの距離が、この人はなぜ、どのようにそう感じたのかだけでなく、そう感じていることがどのような意味を持つのか、に思いつくことを可能にします。一方、後者の「受容」とは、相談を受ける人が自分の価値観や好みによって相手の話を取捨選択せず、どのような話であっても積極的な関心を向けることとされます（諸實 1997）。他者の話を聴く時、誰もが自動的に自身の価値観というフィルターを通して話を理解しています。すなわち、「よい」「悪い」「あるいは」「好き」「嫌い」といった判断を瞬時にしています。「受容」を実践することには非常に難しく、死生観や性倫理の価値観に関わる話を聴く時には特に困難が伴います。自身の価値観に基づき自動的

判断を一旦停止し、相手の話をとにかく理解しようという「受容」の態度を保つには、自分自身の考えや倫理観を一旦脇に置いて、把握している必要があります。すなわち「傾聴」とは、話を単純に聴く技法だけでなく、相談を行う側の理解を伝え返す方法や態度や姿勢をも含む幅広い概念なのです。



Listen 3

普段の日常の相談における「傾聴」の意義

日常で悩みを抱えた人と話をし、その解決に役に立ちたいと思う時、何か言うことで役に立たなくてはと思う人は多いでしょう。しかし、相手を慰めようとかけた言葉に限って思いがけない傷付きを生んだ、あるいは傷付けられたという体験も珍しくはありません。実際に解決策が定まっている事柄の相談なら単純にアドバイスをすればよいが、例えば愛する人を悲惨な形で亡くした悲しみなどは、いくつかの言葉かけですっきり解決できるような悩みではありません。一般には、誰にも変えられない喪失の事実それぞれに折り合いをつけてゆくため、長いプロセスが必要となります。そのような時は、相談する人が怒りや荒唐無稽な想像なども含めて安心して自由に話せることをまず目指す方が、相談によるさらなる傷付きを生みにくい安全な方法となります。それに加えて、自らの思いを自由に語ることで、相談する人の気持の整理や理解が進む可能性も生まれます。

そもそも相談をする側は、解決先を示して欲しいとだけ思って他者に悩みを相談するわけではありません。まずは自分の苦しみを分かって欲しい、なかった事として無視しないで欲しいと、理解や関心を求めているのではないのでしょうか。「傾聴」、すなわち相談を受けている側が熱心に相手の話を聴くことは、この理解や関心を悩みを抱える本人に伝え返すことにつながります。それに力づけられ、相談をする側は時に苦しい作業であってもさらに自分の気持を掘り下げ、様々な思いをより安心して自由に語るできるようになってゆくと考えられます。

大きな痛みや喪失を負った人々の心を支えるとはどういうことか、他者と心の痛みを分かち合うとはどういうことなのか、そもそも可能なのか、この問いへの答えは簡単には出ません。しかし、今回「傾聴」という言葉を考えたことがその端緒となればと願っています。



Profile
柳田 多美 臨床心理学 准教授
●2005年3月上智大学大学院文学研究科臨床心理学専攻博士後期課程修了●同年4月カリフォルニア大学サンフランシスコ校精神医学部PTSDリサーチプログラムポスドク研究員●同年10月新潟大学教育学部教育心理学講座講師●2009年4月同准教授●2010年4月大正大学人間学部臨床心理学 准教授 現在に至る

良正庵

ほほえみ相談室

Ohdai
88号
掲載!

Ohdaiで人気エッセイ「良正庵ほほえみ相談室」

悩みや不安を抱える学生たちを毎回温かい言葉で励ましてくれます。今回ご紹介するのは、4月と8月に発行されたものを転載致します。4月号(Ohdai 88号)は新しい生活を始める新入生にエールを送る内容となっています。興味をもち、世界を広げて生きる力を身につける大切を説く小林良正先生。

同窓生の皆さんも、新しい世界へ踏み出してみませんか。



仕事や勉強のほかに

一心に打ち込むものを持つていれば
広い世界への扉が開き、孤立を防ぐ。

「できれば趣味も徹底して極めたい」と良正尼僧。

一流をめざしやり続けることが
やがて生きる力になっていく。

春

になって新入生を迎える季節
になりました。それまでは群
をなして高校生活を送って

たのに大学へ来て一人になる。そこで大
きな挫折を感じる学生もいるようです。
どのクラスにも、学内の自主活動にも参
加せず、自分ひとりの部屋と授業との往
復だけ。そういう狭い世界で暮らしてい
ると、どうしても孤立してしまいがちで
す。ぜひ自分から飛び出して、もっ
と広い世界をみてほしいと思います。

孤立を防ぐためには趣味をもつことも
一つの方法でしょう。年齢も性別も超え
て、他人とつながれるのは趣味の世界の
いいところです。でも現実には、学生だ

けでなく、親御さんも趣味をもたない人
が多いように感じます。

子どもを大学にやるために、あるいは
自分のちょっとした買い物のために、働
かなければならないから、子どもが卒業
するまでは趣味を持ってない。そういうお
母さんがほとんどではないでしょうか。

もちろん働くことに生きがいを感じて
いるお母さんもいらっしゃるでしょう
が、仕事はしなくても、趣味に生きがい
を見いだすこともできると思うのです。

大学院に入り直して勉強する。あるいは
カルチャーセンターで語学を学ぶ。三
味線や謡いを習う。楽器を演奏したり、
合唱クラブに参加する……。なんでもい

わしい生き方をしている方でした。

師匠を手本にするのは技術ばかりでな
く、その生き方をおおきく見ることでもあ
ります。そういう意味でも、師匠はとて
も大切。この人だと思ふ師匠にめぐりあ
うまで探し歩いてほしいと思います。

一流をめざし、徹底的に

趣味を持つてと言われても、何から始め
ていいのかわからないという人もいるか
もしれません。どんな小さな芽でも好奇
心をもつこと。そして今の自分から一歩
踏み出してみることです。

そうして何かを始めたら、絶対一流に
なるんだという意気込みでやり続けてほ
しい。この程度でいいやと妥協するの
ではなく、やるなら徹底的に、極める生
き方をしてほしいと思います。

徹底的にというのは、たとえばアルパ
イトをするにしても、自分にあつたアル
バイトを探し、問題意識をもって働くこ
とということ。うどん屋さんで働くこと
にしたとしましょう。原料をどこから仕
入れているのか。客あしらいはどうする
か。天気によって出る品は違うのか。そ
の気になればいくらでも見えてくるもの

があるはずで、要はその時間にお金の他
に自分は何を得たか、なんです。ね。

その経験は就職試験のとき、自分に返
ってくると思います。自動車関係に就職
したければ、修理工場の事務のアルバイ
トをしてみてもいいでしょう。いくらで
もやりようは考えられるのに、目先のこ
とだけで決めてしまつてはもったいない
ように思えます。

やり続けることが生きる力に

何を趣味にしても、小さい頃な
らともかく、「あの人が習うから」とい
うのはやめたいですね。その人が習うの
をやめたら自分もやめるのかといつた
ら、そうではないでしょう。

もし途中でうまくいかないことがあつ
ても投げ出さないことです。いまどきの
学生はすぐにクシユンとへこたれてしま
いがちですが、失敗があつてもあきらめ
ずに、何度でもやり直せばいい。

そうやってやり続けることは、自分に
強い信念をもつことになり、ひいては生
きる力になっていきます。大事なものは徹
底して極めること。その姿勢を見せるの
もまた親の役割かもしれません。



小林良正

1950年、愛知県名古屋市生まれ。
大学卒業後、結婚し二児を育てる。
38歳で浄土宗で得度し、1988年、
仏教大学文学部仏教学科卒。1990
年、嵯峨清涼寺にて水谷幸正上人の
剃髪。1991年、良正庵を結ぶ。
「お母さん尼僧の辻説法」講演で活
躍の一方、全国念仏行脚を続ける。
今年4月、日本一周満行。昨年4月
から大正大学キャリア教育研究所招
聘研究員、大正大学講師。

いのですが、親御さんが自分の楽しみを見
つけ出している環境があると、子ども
も趣味を持つてるように思います。子ども
は親を見て育つ。親の姿勢は大事です。
趣味を持つてということはまだ、師匠を
持つ、ということでもあります。その人
は単に習い事の師匠を超えて、人生の師
匠となるかもしれません。

師匠を持つ素晴らしさ

私にとっては、高校2年生のときの担
任の先生が師匠です。高1のとき父の会
社が倒産し、家の暮らしは苦しかったの
ですが、楽しく学校生活を送れたのは先
生のおかげです。修学旅行も行けるかど
うか危うかったのに、先生が家にあつた
まだローンの残っている百科事典を、肩

代わりして買ってくれる人を見つけたく
れて、無事参加することができました。
高校3年になって担任をはずれてから
も、大学に推薦してくれたのは彼女でし
たし、何かあると心にかけてくれたので
す。気持ちがあくじけそうになると「あな
たなら絶対できるから」と励ましてくれ、
「女性でも職業をもちなさい」と自らの
姿勢で示してくれました。「生きがいを
見つけることが大事だよ。子どもはその
親の姿を見て育つものだから」と教えて
くれたのも先生です。

その先生と、先日駅でばつたり出会い、
思わず抱き合つて喜んでしまいました。
彼女は65歳で教師の職を退いてからは、
動物園で子どもたちを相手にしたボラン
ティアを続けているそうです。いくつに
なつても師匠は師匠。師匠と呼ぶにふさ

Ohdai 89号 掲載!

日本を襲った未曾有の大震災。そして原発事故。かつてないほどの日本の危機は自らの生き方を振り返る機会でもある



一瞬にして崩れ落ちた平和な時間。しかし、「生きている間はいつとも非常時」という心構えがあれば、「受け止め方も違ってくるはず」と良正尼僧。無理をしすぎない、自然とともにある生き方を説く。

津波も、過去に到達した例があったのに、自分のところには起きないだろうと考へ、いつの間にか高台ではなく、三角州に家を建ててはいなかったでしょうか。自然とともに生きるという感覚を失いつつあったようにも思うのです。人工的に作られたものを追い求めていると、次はこれ、もっともつと欲望に際限がなくなり、そして、しまいに自分で自分を苦しめることにもつながります。

平常であることのありがたさ

ひとたび非常時に陥れば、平常であることがどんなにありがたいかが、身にしみてわかります。無事に家に帰れること、家族の顔が揃うこと、当たり前前に思えていたこととてつもない幸せ……。

私は幼いときから心臓疾患という病を抱えていましたから、父に「死はいつもそばにあるんだよ」と言われて育ちました。小さい子供に死の恐怖を植えつけた。小さい子供に死の恐怖を植えつけた。小さい子供に死の恐怖を植えつけました。生きていれば必ず死が待っていました。

ますし、今在るものもいつかはなくなるのです。つい先日、念仏を唱えながら全国を歩く行を、20年かかって達成することができました。ようやくお坊さんとしてのスタートラインに立てたと思っております。歩いてみてわかったのは、学者ではない私にはどんな立派な書物より、現実に見たもの、実際に足を運んだことが身になるといことです。なむあみだぶつ、なむあみだぶつと唱えることが何より大事なのです。そう気づいたので、帰ってから家の書棚をひとつ丸ごと寄付してしまいました。私は私のできることをしていきこう。そういう気持ちです。

今を、自分を、大事にする

大きな災害は尋常でない被害をうみ、悲惨な事態を招きますが、多くの人にとって自らの生き方を振り返る機会にもなります。そう感じたら、ぜひ次の3つのことを自分に問いかけてみてください。

- ◎今を大事にしているか。
◎自分を大事にしているか。
◎親を大切にしているか。
今を大事に、と考えるなら、たとえ

日々の仕事も楽しくなければと思うのです。仕事自体が辛くても、家族のために、大切な趣味のために働いているのなら、やりがいがあり、自分を助けるものになるでしょう。苦しみもあるけれど、楽しみにつながっていると いえます。そうではなく、我慢だけを強いる仕事を毎日繰り返すことは、今を大事にしているとはいえません。

次に自分を大事にしているか。端的に言えば、体に毒になることはやらないほうがいいのです。体に毒になるのは、「辛いこと」「執着」「後悔」「損得勘定」、そして「大きな欲望」の5つです。

ときには「辛いこと」であっても、やらなければならぬこともあります。でも、ずっと続ける必要はない。「執着」というのはひとり合点の感情で、わかりやすく説明すると、片思いは執着で、両思いは恋愛。執着すると、体に毒というのがよくわかるでしょう。「後悔」もよくない。終わってしまったことはよくよくよしてもしょうがないのです。たとえ失敗してしまったことでも、無駄はひとつもないと考え、改善することを模索したほうがいい。「損得勘定」も考えてもしょうがないことです。何が得で、何

大 変な震災でした。戦後最大の危機ともいわれ、これから日本は、私たちはどうなるのだろうか。不安を覚えている方も少なくないでしょう。

人間は現金なもので平時には何も起さないことを退屈に感じ、何か面白いことはないものかと考えますが、非常時というのは突然やってきて、平安を奪い去ります。「台風は結婚式で津波や地震は葬式」と言われるのは、前者は予定が立つが、後者は突然やってくるからです。けれども、生きている間は常に非常時という心構えがあれば、受け止め方もかなり違ってくるのではないのでしょうか。

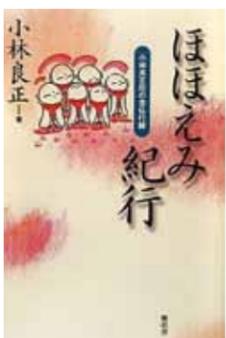
交通事故でも大きな病気でも、火事でも強盗でも、他人のことであれば「ああ、そうだったの」ですませてしまいがちです。「いつも安全」「何か起こるわけがない」「事故は私とは関係ない」……。人は平時時にはそう考えます。でもそれが自分の身内や自分自身に起きたとしたらどうでしょう。それは決してありえないことではないのです。

原発の問題にしても、チェルノブイリの事故を他人事と受け止めていなかったのでしょうか。自分の国にも起きることと真剣に考えていたら、今回の対処法も違っていただけないのでしょうか。

が損になるのか、長い目で見れば全く逆になることもあるからです。

あまり「大きな欲望」をもつのも体に毒です。先ほどもふれたように欲望にはとどまるところがなく、投資で財産を失ったり、自分の健康を軽視して仕事に励み結局大病を患ったり……。達成できないような夢を抱くことは体に悪いのです。

これらをいつも自分に問いかけていれば、生き方が揺らいだとき、困ったとき迷ったとき、答えはおのずと出てくるはず。私はそう考えています。



良正尼の本。『小林良正の念仏行脚 ほほえみ紀行』全国書店にて好評発売中です

「良正庵 ほほえみ相談室」では、お悩み募集中です。本連載にて、取り上げさせていただきます。あなたの簡単なプロフィールと匿名にするかどうかをお書き添えの上、書面にて下記住所までお送りください。よろしくお願いたします。

〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1 大正大学 「良正庵 ほほえみ相談室」係

智慧のことは

このコラムでは「智慧のことば」を多彩な分野から紹介いたします。

今回は本学仏教学科 准教授 勝野隆広先生より仏教の観点から執筆していただきました。

ぜひ生活の「智慧=生きる力」としてお役立てください。

普段、自分自身はたいして運動もしないし、特別にその種目に詳しい訳でもないのに、世界の舞台で日本人アスリートが活躍しているというニュースが流れると、ついテレビに見入ってしまい、にわかファンになってしまう。私もそんな日本人の一人です。

今年の女子サッカーは、その典型的な例でした。予選リーグを勝ち抜けたあたりから注目を集め、決勝トーナメントでは強豪国をきわどい試合で破って決勝へ。決勝戦でも延長の末のPK戦で、ついに初優勝。誰も予想していなかった、なでしこたちの快挙に、日本中が歓喜につつまれました。震災と原発問題で苦しみ日本にとって久しぶりの明るいニュースが復興に向けた大きな励ましとなりました。

また澤選手をはじめとする個性豊かな選手たちの自主性を重んじながら、ときにオヤジギャグを交えて巧みに導いた佐々木則夫監督の指導力も評判となりました。

ワールドカップ優勝に国民栄誉賞の授章と、なでしこジャパンは今年一番輝いた存在だったと言ってよいでしょう。

ただ一つの頂点を極めた選手と指導者が、次にどのような目標を設定し、どのように道を歩むのか、難しい問題なのではないだろうかとも心配しました。

江戸時代末期の禅僧に、山林に幽居して自然を楽しみ、詩作と書道に独特の境地を開いた良寛（一七五八〜一八三二）がいます。

童児らと手まりで遊ぶ姿でもよく知られ、今も親しみをこめて「良寛さん」と呼ばれる高僧です。

その良寛に

つきてみよ
ひふみよいむなやこのことを
とをとおさめて
またはじまるを
という和歌があります。

良寛を慕い弟子入りを希望した貞心尼という尼僧が、手まりに和歌を添えて送りしました。これはその貞心尼への返歌です。

「つきてみよ」には、手まりを突いてみなさい、弟子として私に付いてきてみなさい、仏道を尽きつめてみなさい、という三つの意味がかけられています。

道を極め尽くそうとするなら、手まりを「一」と数えながら突くように、ともかく一から順番に取り組みなさい。もし十という到達点に到ったなら、自分のものとして納め取って、また一から始めなさい。極め尽くすとは、そうした繰り返しになかにこそあるのだよ、と奥深い道理がやさしく表現されています。

七十歳を越えてから出会った若い貞心尼との間の情愛も、良寛の人間的魅力の一



Profile
勝野 隆広
仏教学科 准教授
1989年3月に本学大学院文学研究科仏教学博士課程単位取得。1991年大正大学着任。『伝教大師の生涯と教え』（大正大学出版会）共著など。

つとして語られます。そのきっかけとなったこの和歌にも、肩肘張らずにゆるやかに日々を生きる良寛の姿が覗えて、貞心尼ならずとも惹かれてしまいます。

十を目指して一歩ずつ頑張るのも大変、十の次にどう進むかもまた悩みどころ。しかし二つの境地に安住しては、進歩は望めません。

なでしこジャパンも、佐々木監督のもとロンドン五輪に向け、それぞれに新たな動きを始めたようです。

なでしこたちの頑張りや良寛の和歌に導かれ、私たちが日々の繰り返しなか、歩んでいきたいものです。

書 赤平和順（表現文化学科 教授）



また
はじまるよ
とまよと
ぶさめ



私の歩んできた道

ホームページ連載企画

チャレンジから美しく輝く

表現学部長・教授
西蔭 浩子 Hiroko Nishikage

キャリア、夢、恋愛・・・
自分らしい生き方を探して、頑張っている女性たち
そんな皆さんへエールを発信するのがこのエッセイです
さまざまなジャンルの第一線で活躍する女性が、
「妹」「娘」たちへ、自らの半生、そして輝きの秘訣を語ります
第1回は、NHKをはじめメディアに多数出演し、英語の楽しさを伝えている西蔭浩子先生
実は、高校時代「まったく英語が通じず挫折した」という意外なお話しも
それでは、元気のエッセンスを分けてもらおうことにしましょう



私の英語が通じない!?

英語と演劇が好き。高校時代の私は典型的な「文系女子」でした。高校まで山形県米沢市で過ごし、大学に進学するため上京。大学は文学部ではなく外国語学部を選びました。まず、そのきっかけとなった出来事からお話ししましょう。高校2年生のときのこと、ある日、

先生が「ホームステイするアメリカ人留学生を受け入れてくれる家庭はないか」と私たちにたずねました。英語が大好きだった私は胸をどきどきさせて、「うちじゃない」という思いで手をあげたのです。母に話すと「いいじゃない」といとも簡単にOKしてくれ、他の家に決まらないうちに急いで先生に返事をしました。

ところが、いざ留学生のナイレズ君を前にすると、体は硬直、なにか言おうとすると喉がカラカラで声が出ない。英語が得意という自信が一気に崩れ去りました。お刺身を出すか出さないかで家中が大騒ぎ。医師である父が唯一の頼り。お刺身を食べられるかどうか父に聞いてもらい、「好きだそうだよ」という言葉信じて出したら実はNG。いま思うと、そのとき父は否定疑問文「お刺身好きじゃない？」の答えのYes、Noを取り違えていたようです。落ち込む私と父に対して、驚かされたのは弟たちと母でした。特に下の弟は小学生で英

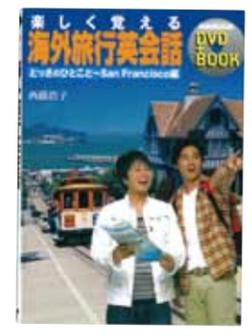
語を習っていないはずなのに、ご飯ができたから呼んできてと言うとちゃんと連れてくる。なんて言ったのと聞いてみたら「レッツ・ゴートゥー・サロン」とあつげらかんとしています。母は何を聞かれても「イエス、イエス」。ナイレズ君が困った顔を見ると、「アイ・ラブ・ユー」と言っ、楽しそうに打ち解けていました。私と父だけが暗い顔をしていたことを覚えています。お別れの挨拶もひと時も話せず、彼が帰ってからすごくショックで一週間ぐらい力が抜けたような状態でした。

だったので現代劇より演じやすかったからです。もっぱら私は男役でしたが(笑)。演劇に進むことは両親から反対されました。でも演劇も英語もどちらも楽しく、大学でさらにのめり込んでいくことになりました。



大人気! NHK 教育テレビの語学番組
西蔭先生は、NHK 教育テレビの語学番組の講師として活躍。
わかりやすく親しみやすい構成になっており、好評を得た。

これはなんとかしなければいけない。ここでリベンジしないと、英語が一生話せないままで終わる。そんな悔しさが、英語の道に進む原点だったと思います。英語を読む、訳すことは得意だったけれど、もしかしたら私がやってきたことは違うんじゃないか。そんな疑問を感じ、大学進学は文学部ではなく外国語学部を選びました。母や弟ができて、勉強している私や父がなぜ話せないのか、通じないのか。その謎解きがすべての出発点でした。もう一つ、演劇を続けたいという夢もありました。演劇部の活動に熱中し、部長を務めたほど。年に数回、民話をモチーフにした戯曲を上演していました。民話を選んだのは、顧問の先生が民話の研究をしていたことと女子だけの部



Profile
西蔭 浩子 表現学部長・教授
コロンビア大学大学院修士課程修了。1994年大正大学着任。
NHK 教育テレビ「3ヶ月トピック英会話」『英語が伝わる! 100のツボ』の講師およびスクリプトとテキストの執筆を担当するなどメディアへの出演、多数。

My History

私の歩んできた歴史

挫折。そして誓い

【高校時代】

英語と演劇に熱中していた高校生時代。ある時、留学生が自宅にホームスティすることになったが、英語が全く通じず意気消沈。英語を話せるようになると決意。

有名俳優との出会いも

【大学時代】

獨協大学で異文化コミュニケーションを学ぶ。そこから英語が通じなかった謎解きが始まる。早稲田の演劇サークルに参加し、佐藤B作さんと交流。

今後の「私の歩んできた道」で公開

英語教育者の第一歩

【英語講師・通訳】

通訳ガイド養成所で、英語を教えたり、通訳の仕事に携わる。同時通訳者の鳥飼玖美子さんと知り合ったのもこの頃。人脈が広がっていく。

留学生に教えられ

【留学生指導】

お礼を言う時にも、謝る時にも使う「どうも」という日本語を留学生が不思議がったり・・・日本と諸外国の言葉・文化の違いの面白さを身をもって実感した。

就活のために奔走する日々

【ビジネススクール校長】

おもに女子学生を中心とした就職のためのビジネススクールで校長を務める。企業訪問をしたり、懇親会に参加したり、朝から晩まで休む間がなかったとか。

大正大学、さらにメディアへ

【大正大学着任】

本学の教壇に立ちながらコロンビア大学院でTESOL（英語教授法）を学ぶ。NHKの語学番組の教材作成、講師も務める。ここで、栗原はるみさんをはじめ素敵な出会いが。

いました。私は、演劇を続けられたら一番いいと思っていました。でも、そのためにはお金が必要です。英語を教えながら演劇がやりたいと思い、通訳ガイド養成所という学校の教員採用に応募し、運良く専任教員に採用されました。ただ、入ってみたら意外と大変。教授方法に力不足を感じ、予習に追われて、演劇からどんどん遠ざかっていってしまいました。後に佐藤B作さんから「本人所属劇場のオーディションに誘われ受けてみましたが、ブランクは埋めがたいものでした。それですらりと演劇を諦め、教員になったわけです。しかし、これまでお話ししてきたように、今の私があるのは、英語

も演劇も二つひとつの経験の積み重ねの結果です。どれも楽しかったし、無駄だと思ふ経験は一つもありません。ですから、やりたいことが見つからないという相談に対しては、あまり大きな夢をいきなり考えるのではなく、まず身近なゴールを決めて一つひとつクリアしていったらとアドバイスしています。私がリベンジから始めたように・・・

英語は鏡。日本の文化や言葉の不思議を写し出してくれます。自分の本当の姿を知ること、英語をもっと効果的に身につけることができるはず。わくわくするような教授法をこれからも探り続けていきたいと思えます。



佐藤B作さんと携った演劇のパンフレット。早大劇団こだま 定期公演に出演し、スタッフとしても活躍していた。俳優佐藤B作さん（本名：佐藤俊夫）が制作として携わっていた。（大辻浩子は西蔭先生の旧姓）

次回連載の予告

西蔭浩子教授のインタビューはこの紙面を含め、3回連載を予定しております。続編となる2回分は、今後大正大学鳴台会ホームページにて公開いたします。お楽しみに！

2012年1月公開

『チャンスは身近にある』
（専門学校教員・校長時代）

2012年2月公開

『出会いに恵まれて』
（大正大学時代、栗原はるみ氏・鳥飼久美子氏との出会い）

http://www.tais.ac.jp/related/ex_org/alumni/alumni.html

※予定は変更することがありますので、予めご了承ください。大正大学ホームページでご案内を致します。



→プリンスホテルで開催されたユネスコ国際会議のスタッフとして、世界各国の会議参加者に英語で受付を誘導する係として携わった。（写真の右端：白いワンピースが西蔭先生）

←日米海洋会議のレセプションパーティーで通訳アルバイト。手前円卓の黒髪の女性が西蔭先生。



ゼミでは異文化コミュニケーションを専攻しました。コミュニケーションというところ、漠然としていて、実際、ゼミでは好きなテーマをなんでも研究していいとのこと。ジャズと演劇を比較して調べている人もいました。こんな遊びのようなことでも、日本語と英語の音の違いが明らかになります。例えば、私の英語がナイレス君に通じなかったのもこれが落とし穴だったのです。日本語は母音が多いので小さな声でも聞き取れるけれど、英語は強い音を出さなければいけない。発音が下手でも大きな声で息が届くぐらいに話すといい。コミュニケーションを学ぶ中にリベンジのヒントがあることを確信しました。私は言葉の問題がさらに面白くなって研究を進めました。例えば、「どうもありがとう」「どうもすみません」。いいことにも悪いことにも使う「どうも」という日本語の不思議。父も困った日本語と英語の違い、その謎解きの楽しさにますます惹かれていきました。

その一方で、早稲田の演劇サークルに参加していました。そこに入学するためには幹部の面接が必要で、私に会ってくださったのは当時学生だった佐藤B作さんです。同じ東北人同士、とてもかわいがってくさいました。今でも舞台を拝見しに行っています。文芸座や民芸といった商業劇団が存在を示す一方で、それに対抗する前衛劇が台頭してきた時代。寺山修司さんや唐十郎さんといった人々たちです。天井敷敷館が近くだったこともあり、そこに集まる少年少女がよくうちに遊びに来ていました。これまでの価値観が打ち破られていく時代を共有し、ぞくぞくするような興奮を覚えました。

※1969年に会館した日本初の実験的な芸術を上演する劇場（故・寺山修司主宰）



身近な目標から一歩ずつ

いま学生と接していると「やりたことが見つからない」という声をよく耳にします。就職活動が大変な状況にあつて、みんな必死です。それに比べたら、私のころは申し訳ないようにのびのびした時代でした。教員になるのが意外とたやすく、企業もとにかく人を欲しがって

【右】英語劇シェイクスピア「ロミオとジュリエット」の台本。ページのところどころに和訳と演技指導のメモ書きが見受けられる。
【右】西蔭先生直筆の衣装最終プランのイラスト。役の他にも衣装係も担当。団員全員で劇を作っていた。

鴨台アスリート

数々の輝かしい実績をもつ本学の体育系サークル。なかでも今回紹介する3つのクラブは、長い歴史と伝統を持ち、過去の大会でも好成績を残しています。今期も空手道部の関東大会準優勝をはじめ、他の2つのクラブともその成績に劣らぬ健闘ぶりです。

これからも体育系クラブ・鴨台アスリートへの熱き応援をお願いします。

野球部

平成23年度東都大学野球 秋季リーグ戦 3部2位

2部への入替戦で敗北を喫した春季リーグ。この悔しさをバネに挑んだ今回の秋季リーグでしたが、残念ながら順天堂大学の後塵を押し7勝5敗の2位となりました。

4年生はこれで大学野球引退となります。

硬式野球部ホームページより、マネージャーのブログを紹介いたします。

「4年生5名は今日で引退となりますが、この野球部で学んだことを活かし、社会人として今後日々精進していきたいと思っています。そして、これか



らも大正大学硬式野球部をよろしく願っています。」
来年へ向け野球部の活躍に期待しましょう。

空手道部

第54回 関東大学空手道選手権大会 女子団体組手 準優勝

平成23年10月30日(日)日本武道館において第54回関東大学空手道選手権大会が開催された。

本学が出場した女子団体組手の部には32校が参加し、初戦の明星大学に対し(3-0)、2回戦の防衛大学校に対し(2-0)、3回戦の日本体育大学に対し(2-0)で順当に勝利し準々決勝へ駒を進めた。

準々決勝では、5月の東日本大学空手道選手権大会の準々決勝で敗北を喫した日本大学との



関東大学空手道選手権大会 女子団体組手 準優勝 3年アーバン福祉学科 田邊 梨加子(写真左)



表彰式の様子 4年仏教学科 高谷 郁子(写真左)

対戦となった。接戦が予想されたが(2-0)と快勝し、決勝戦に進出を果たした。

決勝戦では、ここ数年勝ち星のない帝京大学との対戦となった。先鋒の高谷郁子(仏教学科4年)は接戦を演じ、5-5の同ポイントでむかえた試合終了残り5秒でポイントを奪われ5-6と惜敗。続いて中堅の田邊梨加子(アーバン福祉学科3年)が現世界チャンピオンの小林と対戦。残念ながら力及ばず2-6で敗れ、優勝を逃した。

【女子団体組手メンバー】
先鋒 高谷郁子(仏教学科4年)
中堅 田邊梨加子(アーバン福祉学科3年)
大将 東世菜(歴史学科3年)

女子団体組手試合規則
●1チーム3名(先鋒、中堅、大将)
●先に2勝をすると勝利
●試合時間は2分間
●6ポイント先取で勝利

カヌー部

アジアカヌースプリント 選手権大会 第2位!

ロンドンオリンピックアジア

大陸最終予選会アジアカヌースプリント選手権大会(10月13日~17日 イラン(テヘラン))は本学職員水本圭治さん(2011人間学科卒)がロンドンオリンピックの出場がかけられるレースだった。

オリンピックへの出場は、各

狭き門である。

出場種目は

K12 1000m

K11 500m

の結果はK12 1000mが

決勝5位、K11 500mが決勝2位となり残念ながら、ロンドンオリンピック出場はならなかった。K11 500mでは優勝した中国

の選手にわずかの惜敗。1992



K-1 500mの表彰式の様子(左が水本選手)

は優勝した中国の選手にわずかの惜敗。1992年(平成4年)第25回バルセロナオリンピックナオリンピックC21500m、C211000mで日本代表となった富山克也さん(文学部哲学科)、内野経久さん(文学部哲学科)以来のオリンピック出場選手は残念ながら誕生しなかった。

茶道部

被災者への施茶活動

文化系サークルは年々増加し、今年度は41団体が独自の活動を展開しています。他大学にあるようなサークルはもちろん、福祉系、仏教、雅楽といった本学ならではのサークルも数多くあります。今回は震災支援活動をした茶道部の活動をご紹介します。

大正大学茶道部有志が、被災者の方々のもとへ出かけ、お抹茶(薄茶)とお菓子を供して参りました。7月18日の郡山では富岡町・川内村からの避難者、仙台では被災者の中でも特に小学生を中心に、

いずれも70~80名ほどの方々にお楽しみいただきました。11月3日のビッグパレット

福島では主にお茶とお菓子を召し上がっていただき、仙台では、児童館の要望で風炉薄



茶の点前を披露し、お茶の飲み方指導などしつつ、同時に他のイベントのお手伝いもできました。興味をもった小学生は熱心に点前に見入り、薄茶を2回、3回とお代わりする児童もいたほどです。

茶道部所属の学部4年生有志が避難所に向き、直接話し合っ

てこれらの奉仕活動が実現しました。保険手続き、道具準備や片付けは参

加者以外の部員も働き、学生らしい身の丈の支援活動ができたと考えます。交通費については、本学の先生方に少しずつカンパ頂き、非常に助かりました。大学内外の関係の皆様、ご理解とご支援有難うございました。

なお、本年度、茶道部は創部50周年を迎えました。11月23日には50周年記念茶会と祝賀会を開催しました。前々部長石上善應先生・前部長多田孝文学長はじめ50名以上の卒業生がお越し下さいました。

(指導顧問・霜村 毅真記)



友達は何物にも代えたい無二のもの

石田 裕輔 2007年3月 文学部 表現文化学科卒業

“お気に入り”というと、まず何を思い浮かべますか。人？物？はたまた、場所？あらためて言われると、「これが私のお気に入り」というのは難しいものではないでしょうか。お気に入りと言っても、小さい頃から全く変わらないものもあれば、自身の成長によってどんどん変わる類のものもあると思います。私はどちらかといえば物持ちが悪く、根が移ろいやすい気質なためか、ずっと変わらないお気に入りが見当たりませんでした。ですので、社会人5年目となった今現在のお気に入りを紹介しようと思います。

ありきたりな答えですが、それは「友人と過ごす時間」です。学生時代では当たり前すぎて、こんな結論に行きつくことはなかったでしょう。しかし、お互いに社会人になり、一日の大半を仕事に費やすようになったことから、当たり前のように会える時間が当たり前ではなくなった。そのことにより、自分の意識の中で位置づけが変化したのです。また、人は社会で生きる上で、様々な仮面や装飾をつけて着飾らなくてはならないものだと思います。上司に対して愛想笑いをする自分、親に対して良い顔をしようとする自分、彼女に対して見栄を張る自分。

それは私も例外ではありません。もちろんそういったことは必要なことで、決して悪であるわけではないのですが……。やはり、着飾ってばかりいると疲れてしまいます。私にとって友人というのは不思議なもので、そういった面倒な装飾を極力とっばらって接することができる貴重な相手なのです。

つまり、一番素に近い自分でいられる相手ということになります。以上の二つの理由が合わさって、「友人と過ごす時間」は、今の私にとって何物にも代えたいものになっているわけです。つまり、「友人と過ごす時間」=My Best Favorite One であると、そういうわけです。



友達と過ごす時間



旅行の醍醐味に大満足！

富田 七重 1999年3月 文学部 史学科卒業

私は旅行が大好きです。友人や家族とワイワイしながら行くのはもちろん、自由気ままに一人旅というもお気に入りだったりします（今のところ国内旅行限定ですが。）。

最近、印象深かったのは、世界遺産の白川郷への一人旅です。今年の冬、急に「雪の白川郷が見たい!」と思い立ち、向かった白川郷は、期待通りの銀世界。初めて見る雪の降り積もった美しい合掌造りの集落に大興奮でした!

宿泊はもちろん合掌造りの民宿です。世界遺産の建物である合掌造りの宿に泊まるのも以前からの念願だったので、とても感激しました。宿の部屋と外は、障子でたった一枚を隔てただけ。それなのに暖房のきいた部屋は暖かくて快適です。テレビも時計もない部屋は、まさに非日常でした。宿の夕食は、大広間で宿泊客みんなですでいただけます。その日の宿泊客は私を含めて4組5人。初めはみんな静かに食事していましたが、やがて宿泊客同士、会話が始められました。就職が決まり、ノープランで2週間旅行をするという青年、強制的に会社で休みを取られたため、合掌造りを見に来たという会社員、職場の同僚で日ごろの疲れを癒しに来たと

いうOL2人組。こういった一期一会の出会いも、旅の醍醐味ですね。

翌朝、部屋の障子を開けて外を見ると、前日からの雪がビックリするほど積もっていたけど、快晴に恵まれ、この旅でいちばん行きたかった白川郷の展望台へ。合掌造りの集落を一望できる展望台からの風景は、まさに「白川郷」といった感じで、いつまでも見ていたいと思わせる風景でした。今回は雪の白川郷を堪能したので、次は雪以外の時にまた来たいなあと思いながら、旅を終えたのでした。さあ、次はどこに行こうかな。



白川郷の合掌造り

今回のテーマ
「私のお気に入り」

同窓生でつながる リレーエッセイ

同窓生の皆さまの近況や思い出、ふるさと自慢など、さまざまなテーマを語っていただき

同窓生同士の交流を深めていただくコーナーです

あなたからのメッセージで同窓生の輪が広がり、また新たな同窓生との絆が生まれることでしょう



御陣乗太鼓からエールをもらっています！

岡垣 祐吾 2003年3月 文学部 国際文化学科卒業

私は、4年前から実家の家業である石川県輪島市の輪島塗製造・販売業を継いでおります。輪島塗に携わっていく中で、日々伝統に対する心構えと職人の方の仕事に対する誇りを身近に感じ、毎日が刺激にあふれています。

そんな私のお気に入り、子供のころから観ていた、地元輪島市の指定無形文化財に指定されている御陣乗太鼓です。御陣乗太鼓とは、鬼面などのお面をつけながら独特の迫力で叩く太鼓のことで、越後の上杉謙信が、能登の名城・七尾城を攻略した余勢をかって奥能登平定に駒を進めた史実に由来します。

上杉軍は各地を平定し天正5年（西暦1577年）、破竹の勢いで名舟村（現在の輪島市名舟町）へ押し寄せてきました。武器らしいものがない村人達は、鍬や鎌まで持ち出して上杉勢を迎撃する準備を進めましたが、あまりにも無力であることは明白でした。しかし、郷土防衛の一念に燃え立った村人達は、村の知恵者といわれる古老の指図に従い、樹の皮で仮面を作り、海藻を髪とし、太鼓を打ち鳴らしながら寝静まる上杉勢に夜襲をかけたのです。上杉勢は思いもよぬ陣太鼓と奇怪さ

をまる怪物の夜襲に驚愕し、戦わずして退散したと伝えられています。この史実を基に、現在まで輪島御陣乗太鼓保存会が太鼓を叩き続けています。伝統を守りながら人々に感動を与え続ける彼らの姿勢に、私自身も大変励まされ、観るたびに原点回帰させてくれます。

伝統工芸を継承していくことは簡単ではありませんが、先人が築いてきた技術を維持・発展させていき、流行に左右されない輪島塗を追求していきたいと思えます。まずは、漆器に馴染みがない方々に漆の魅力を伝えていき、お椀一客からでもお使いいただくことが私の目標です。



輪島御陣乗太鼓の演奏



自分の世界を広げる旅行に夢中！

矢島 京子 2010年3月 文学部 表現文化学科卒業

学生時代は小嶋ゼミの一員として、入試学生スタッフの一人として、大好きな友人たちと充実した毎日を送っていました。あっという間に卒業から1年半。社会人2年目を迎え、新たに見つけた私のお気に入りは、趣味の「旅行」。卒業後、一人暮らしを始めてから、家族や友人と国内外の旅行に行く機会が増えました。社会人1年目には、卒業旅行を兼ねて20年来の幼馴染とカンボジアに行き、今年9月には還暦を迎えた母とインドへ行ってきました。

学生の時自分の世界が大切で、新しい世界に興味も持たなかったのに、社会に出て働いているうちに、食欲に自分の世界を広げたくなりました。きっと仕事漬けの毎日、自分の自由な感覚を取り戻すような、息を吹き返す、そんなきっかけがほしかったのだと思います。インドもふと「あの白い霊廟を見てみたい」と思い立ったのがはじまり。時間をかき集めて、世界遺産タージ・マハルを見るためだけに行ってきました。

私にとって旅行とは、海外でも日本でも、たとえば近所の知らない路地に入ってみる散歩でも、同じエネルギーを使います。大事なことは“行動”の最初の一歩に、エネルギーを注げる

かどうか、ではないでしょうか？ 知らない土地に行くたびに、衝撃や感動を味わい、自分の世界や価値観が変化していることに日常の何気ない瞬間気づきます。知らない土地で人に出会い、景色を見て、空気を吸うと、心が満たされるのはなんとも不思議。

また、一人暮らしの影響か、帰る場所があるから旅行も楽しいんだと。「おかえり」と言ってくれる人の存在が、こんなにも嬉しくて、こんなにも元気をもらえるものなんだと、初めて知りました。行きたい場所はまだまだあります。どんなに年を重ねても、どんなに忙しい毎日でも、旅行を楽しめる人でありたいと思います。



タージ・マハル廟



ネットショッピングから贈るプレゼント

秋山 豊 2000年3月 人間学部 人間福祉学科卒業

僕が学生時代の頃は、ようやく携帯電話が普及し始めた、そんな時代でした。そんな自分もPHSから携帯電話に変えたばかりで、礼拝堂に入ると電波が入りづらかったのをふと懐かしく思い出しました（笑）。大正大学を卒業してから10数年。最近のお気に入りと言えば、主にインターネットを利用した通信販売です。仕事中にちょっと気になった本やCD、食料品や地域の特産品など、携帯電話やパソコンから簡単に買うことができるので本当に便利です。

届いた商品の中身に、短くても手書きのメッセージが入っていたり、機械的ではない注文確認メールが届いたりすると、やっぱりそれだけで嬉しくなります。そうした気遣いが次の購入にもつながるんだよね、と妙に納得しながらも、連日のようにクリックしてしまいます。それにしても、就寝前に注文をした商品がその翌日の夜に届くこともあり、想像もできないほどの物流ネットワークの発達や情報技術の進化を改めて感じる毎日。きっとその裏では、商品を受注する人、梱包する人、発送作業をする人、配達する人など、一人の発注が多くの人によって支えられているのだと実感します。

特に最近、実家で暮らす両親に産直品を購入することが増えました。例えば、北海道のホワイトコーンや和歌山の梅酒など、両親が自分たちでは買わないだろうけど、届いたら嬉しいと思ってもらえるようなもの。そういった商品を選んでいきます。誰かにプレゼントを贈るときと同じように、送る相手を想像しながら商品を選ぶ楽しさは、いつになっても変わりません。と、か書いていますが、実は、商品が届く頃を見計らって実家に帰る口実を作っていたりもします。でも、一番気になるのは、愛犬に渡すお土産がないことです・・・（笑）。



愛犬たち

今回のテーマ
「私のお気に入り」

同窓生でつなぐ
リレーエッセイ

今回のテーマ
「私のお気に入り」

同窓生でつなぐ リレーエッセイ

趣味の帽子と私

和氣 昭祐 1981年3月 文学部 文学科卒業

「お父さん、昨日被っていた方が似合う!」出掛けようとする私の背後から、娘の楽しそうな声がある。私は今、帽子に凝っている。と言うよりも、帽子を被ることに凝っていると言った方が正しい。

思えば私と帽子との出会いは、中学生の野球部からだ。野球部で被っていたのは危険から頭を守る、日射病から頭を防ぐ、等々、安全の為である。その後、父に頼まれたベレー帽を見に行った時に、カンゴルの帽子にすっかり魅せられてしまったのだ。

不思議なもので、帽子を被ると気持ちがキリッとする。素材や色によって、またその日の気分によって、帽子を変えるのは楽しい。だが不思議な事に、私と娘は帽子が好きだが、何故か妻と息子はあまり興味がならしく、帽子は被らない。ただ、この何年かは酷暑の為、草むしりと庭掃除の時だけ、妻は日射病防止のためにしぶしぶ麦わら帽子を被っている。だが、実用的に使っているため、どうも可愛らしくて笑ってしまう。麦わら帽子でお洒落するのも変だが、その調子で普段使いの帽子も

被るので、なんとも可らしいのだ。また、息子は帽子を最後に被っていたのは、小学生のカラー帽子だから、被らなくなってからかれこれ15年経つ。

たまたまカラーコーディネーターの勉強をしていた娘のお陰で、より一層楽しみの幅も広がって、小さなお洒落を楽しんでいる。我々男性も小さなお洒落を楽しむのも良いことだな。と1人で頷いている。



お気に入りの帽子たち

ゴルフとバラ栽培がお気に入り

斎藤 美佐 1989年3月 文学部 文学科卒業
(旧姓：鈴木)

私はスポーツ好きな家庭で育った為、家族皆で何かしらのスポーツをして楽しんでいました。父が大のスキー好きの影響もあり、私も大学ではスキー同好会に入り4年間、スキーと共に学生生活を送りました。結婚子供がオムツのうちからスキーへ連れて行き、念願の三世代で滑る事ができましたが、子供の成長と共に受験や部活等で行く機会も少なくなり、元々体を動かす事が好きなので何かこれから続けられるスポーツはないだろうかと思ひ、そこで始めたのがゴルフでした。

ゴルフはなかなか思う様には上達出来ませんが、大自然の中で会話をしながら芝生の上を何キロも歩く事は大変気持ち良く、心身共にリフレッシュ出来ます。このスポーツだからこそ、幅広い年齢層の方々と仲良くなれ一緒に楽しめるのも魅力の一つです。これから、ゴルフも三世代で是非楽しみたいと思っています。今では、すっかりお気に入りのスポーツです。

もう一つのお気に入りは、バラの栽培です。バラには沢山の品種があり、家族や友人やペットの名前と同じ品名の

苗を探すのも楽しく、また水やり、肥料、剪定等と手をかければかけただけ綺麗な花を咲かせてくれるのです。庭の花壇に植えたバラの苗も数年はかかるでしょうが、丹精こめてコツコツと育ててあげれば、素敵に彩り輝いてくれることでしょう。

紫外線の多い中でシミ爆弾怖いなど思いながら…お気に入りなら、まあ、いいかあ〜
ゴルフもバラの栽培もお気に入りだからこそ、日頃の地道な努力も楽しみに感じられるのですね。



栽培したバラ

定位置で聴くハワイアン

橘 信雄 1981年3月 大学院仏教学専攻 真言学 修士課程修了

今年の6月に、父が85才の生涯を閉じた。父は、玄関先の座敷にある座卓で、いつもラジオを聞きながら塔婆を書いていた。そこが「父の定位置」であった。6年ほど前に父が腰を痛めてからは、その座卓に私が座ることが増え、気が付けばいつのまにか「私の定位置」になっていた。

父は、その場所ですいつも小さなラジオを聞いていた。私は、そこが「私の定位置」になってから、小型のスピーカーを、「定位置」が最適なリスニングポジションになるように設置して音楽を聴いている。

丁度私あたりの年代が、ビートルズをオンタイムで聴いていた最後の世代になる。私もそれからロックにはまり、お決まりのようにJAZZへ移行していった。それ以外にも、R&B・ポップス・ボサノバ・レゲエ等々、基本的にジャンルを問わず何でも聴いている。ただ、なぜか近頃クラシックをとんと聴かなくなってしまった。代わりに、15年ほど前からハワイアンを聴くことが増えてきた。CDも30枚以上になった。必然的に、「定位置」で聴いているのもハワイアンが多くなる。澄んだ蒼い空、照りつける太陽ときらめく水面、吹き渡る爽やかな風を感じさせる、

ゆったりとしたウクレレとスラッキーギターの響きが、私にとって何よりの癒しになる。あまりの心地よさに、塔婆を書きながら夢の国へ誘われることも屢々である。ということで、私のお気に入りには、「定位置で聴くハワイアン」ということになるのか。

父がラジオを聞き、今私がハワイアンを聴いているこの場所も、やがて「息子の定位置」になるだろう。その時、はたして息子は何を聴くのだろうか。ふと思う今日この頃である。

しかし、我がことながら、作業衣を着た住職がハワイアンを聴きながら塔婆を書いている姿は、どう見てもかなりシュールなことは否めない。



ハワイアンのCD

同窓生同志の交流の架け橋となるリレーエッセイ。
同窓生の皆さまからのエッセイを募集しております。
下記までお問合せください。

大正大学 校友会室

03-5394-3031

鴨台倶楽部がスタートしました

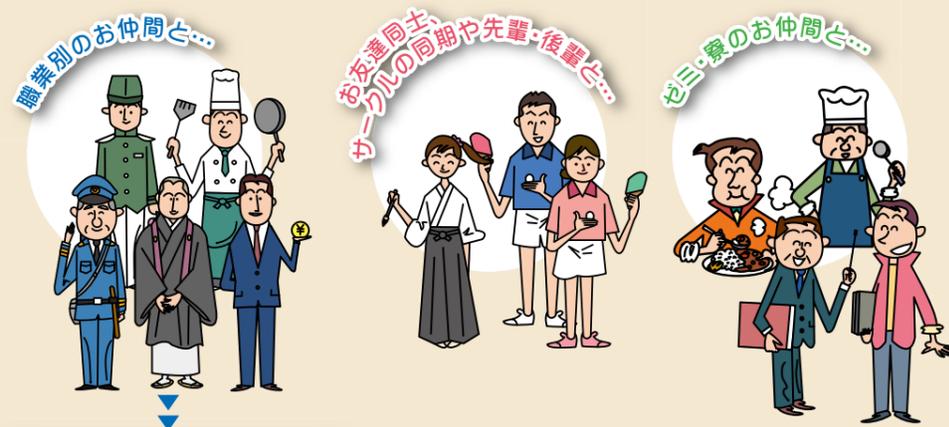
自分たちで作れる同窓会

「鴨台倶楽部」

同窓生同志、同窓生と母校、同窓生と在校生のつながりを築き、母校の発展に寄与することを目的としています。

同窓生同志の絆を深めること、助け合うこと、そして会員相互の親睦を図ることが出来る「鴨台倶楽部」。

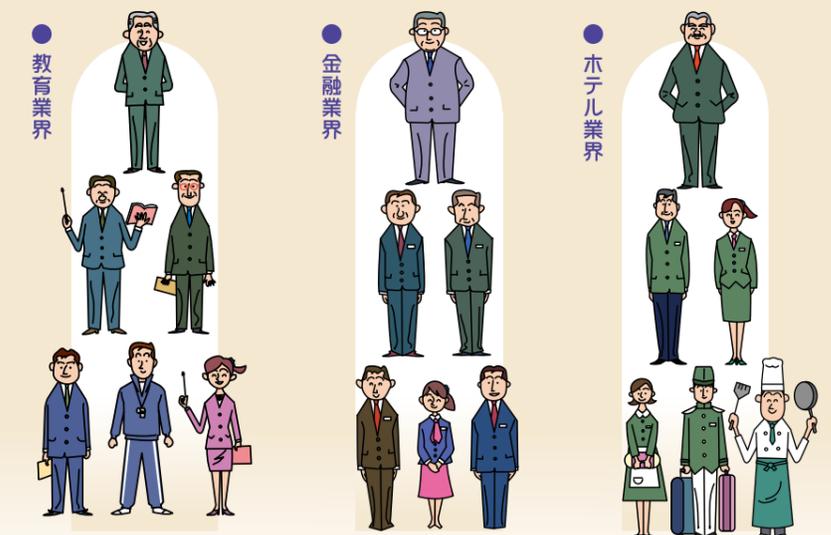
同業種で、同じゼミナールやサークルの仲間と、ぜひ鴨台倶楽部にご登録ください。



例えば 職業別のお仲間と...
世代を超えた絆を作ることができます!

- 同じ職業を選んだ同窓生と今後の業界展望を語り合いたい
- 職業観を学びたい
- 業務上の悩みや仕事を通じた感動を同業者同士で共有したい
- 職場以外の同業者の方と仕事についての情報交換がしたい

このような要望にお応えするのが鴨台倶楽部です!



- ① 皆さんで同窓会を発足できます。
 - ② 会員の皆さんで絆を深めることが可能です。
- ※ 皆さまの同窓会ネットワークから派生して、大学全体が活性化することを期待しています。

「鴨台倶楽部」は...

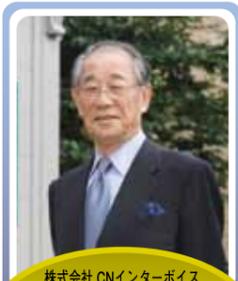
同窓会活性化の期待を担う「鴨台倶楽部」 全員世話役の気概で参加して欲しい

同窓生は大学にとって何にも勝る財産です。今年「鴨台倶楽部」が新たに発足し、同窓会活性化へ向けた動きが進んでいることをとても喜ばしく思っています。鴨台倶楽部は、従来の支部組織を中心とする縦軸のつながりに加えて、学科、同期生、ゼミ、サークルといった横軸のつながりを構築・強化していこうという狙いで生まれました。これにより、同窓会に参加するチャンネルが大きく広がることとなります。これはまさに、宗門に限らず、一般の同窓生の皆さんにも鴨台会(同窓会)に積極的に参加して欲しいという、大学の期待のあらわれと言えます。

この期待に応え、皆さんの母校に対する熱い思いをぜひ「鴨台倶楽部」で形にしてください。誰かがやってくれるだろう、呼びかけがあったら入ろうではなく、一人ひとりが世話役になる気概で立ち上がっていただきたいと思えます。地域の支部のほか、4つも5つも「鴨台倶楽部」に所属する人があってもいいでしょう。同窓会活動は、ネットワークが多様かつ緊密になることでさらに力を

を発揮することが出来ます。まず本学には、日本全国に同窓生が営む1万数千の寺院があります。つまり、縦軸のつながり、コアが非常にしっかりしていることは、本学が誇る特性です。このコアとなるいわば活動拠点に、いろいろな横軸のつながりが融和していけば、本当に頼もしい同窓会組織になっていくはずなんです。

繰り返しになりますが、一人ひとりの自発的な行動がなければ、組織の輪を広げていくことはできません。鴨台会(同窓会)、さらに言えば大正大学という組織全体の活性化は皆さんの双肩にかかっているのです。創立90周年に向けて、本学の存在感もいっそう高まっています。その看板を担う同窓生の皆さんに、いっそうの奮起を願わずにはられません。



株式会社 CNインターボイス
代表取締役会長
鴨台倶楽部理事
1956年文学部社会学科卒業
静永 純一

例えば
職業別のお仲間
以外にも...

- ▶ゼミ・サークルの仲間と...
仲の良い同期や、同世代で定期的にお会いしていますか? 結束力を高めると同時に、これからの活動の拠点にすることができます。
- ▶青春時代、寝食を共にした寮の仲間たちと...
しばらく連絡を取っていない寮のお仲間はいませんか? お互いの近況報告をかねて、青春時代の思い出話を花を咲かせてください。
- ▶これまでにご登録いただいている団体
クラブ・サークル系 大正大学鴨台卓球会 / 鴨空会 / 大正大学音楽部同窓会 / 大正大学書道研究会旺美会 / 大正大学茶道部鴨台会
学寮系 道心寮鴨台会智山派連絡協議会
職域系 教職鴨台会 / 医療福祉鴨台会 / 大正大学ホテル鴨台会
学内・学会系 大正大学社会福祉学会
有志系 彩の国鴨台会 / 大正大学鴨台倶楽部「守成会」



さらに鴨台倶楽部は、業種の垣根を飛び越え、卒業生同士が手を携えていく横断的ネットワークの形成も目指しています。

登録まで



“和”を
広げましょう

鴨台倶楽部の新規登録をお待ちしております。大正大学 校友会室までご連絡ください。03-5394-3031
【本学ホームページ】 http://www.tais.ac.jp/related/ex_org/alumni/odai_club/odai_club.html

鴨台会倶楽部紹介

平成23年5月の鴨台会理事会において鴨台倶楽部12団体が承認されました。その中で職域系の鴨台倶楽部として「ホテル鴨台会」「教職鴨台会」が承認されました。京王プラザホテル、ロイヤルパークホテル、東京ドームホテル、グランドハイアット東京、富士屋ホテル、高崎ビューホテル、などホテルに勤務している同窓生がいます。教職においては退職されている方々を含め100名近い同窓生が教育の現場に係わっています。職域系の鴨台倶楽部として今後の活動が期待されます。



ホテル鴨台会
同職種として、絆を
深めていきましょう！

ホテル 鴨台会

「ホテル鴨台会」の初会合が平成23年11月1日、大正大学巣鴨校舎にて行われた。今回は今後の会の運営など忌憚のない意見交換を行った。

現在の会員は20代が大半を占めており、現場での業務についていることが多く、会を開催しようとしても、なかなか都合がつかないことが多い。電話での連絡もスムーズにいくことが困難な状況にある。そこでフェイスブックなどを利用して会員に会の開催を通知することをやってみたらどうか。また会員の募集にも力をいれ、幅広い層を会員にすることにより会全体をより充実したものにして行こうなどの話が挙がった。

また、この会を同窓生同士だけでなく、ホテル業界に興味のある学生達の為に役立てられる会にしていきたい。これから本格稼働を始める「ホテル鴨台会」において有意義な会となった。



京王プラザホテル
原田雅生さん

ロイヤルパークホテル
小池晃一さん

高崎ビューホテル
比嘉祐治さん

ホテル鴨台会会員一覧

- 原田雅生 1999年 社会学科卒
- 小池晃一 2002年 人間福祉学科臨床心理学専攻卒
- 松浦彰子 2002年 日本語・日本文学科卒
- 佐藤大介 2005年 人間福祉学科臨床心理学専攻卒
- 忍足尚政 2007年 人間福祉学科臨床心理学専攻卒
- 鈴木千佳 2007年 人間福祉学科社会福祉学専攻卒
- 比嘉祐治 2007年 人間福祉学科社会福祉学専攻卒
- 石田裕輔 2007年 表現文化学科卒
- 安武英恵 2007年 人間科学科卒
- 藤田彩子 2007年 表現文化学科卒
- 下平智子 2007年 歴史文化学科卒
- 吉岡秀謙 2007年 表現文化学科卒
- 菅谷真理子 2008年 表現文化学科卒
- 萩原 愛 2008年 人間福祉学科臨床心理学専攻卒
- 吉田春香 2008年 人間科学科卒
- 西寅裕美 2009年 表現文化学科卒
- 吉澤 敏 2009年 人間福祉学科社会福祉学専攻卒

- 京王プラザホテル
- ロイヤルパークホテル
- 高山グリーンホテル
- 日本ホテル
- 東京ドームホテル
- グランドハイアット 東京
- 高崎ビューホテル
- プリンスホテル
- リゾートトラスト
- JR 東日本
- 株式会社 木曾路
- プリンスホテル
- ルートイン西那須野
- 富士屋ホテル
- 昭和の森総合サービス
- 品川プリンスホテル
- マロウドインターナショナルホテル成田



京王プラザ
ホテル

東京ドームホテル



グランドハイアット 東京



プリンス
ホテル



株式会社 木曾路



品川プリンス
ホテル

教職 鴨台会



第一回教職鴨台会の会合が行われた。

第一回教職鴨台会が平成23年11月3日大正大学巣鴨校舎にて行われた。当日は13名の教職についている卒業生が参加をした。小学校、中学校、高校と勤務先も立場も異なるわけであるが、「教職鴨台会」の活動を通して教員同士親睦を深め、互いの情報交換、スキルアップができるような場。また、教職を目指す後輩達の為に活動をする。これにより一人でも多くの後輩が同じ教員として教壇に立つことは、OB、OGとしてはうれしいことであり、教職鴨台会の会員が増えることにより活動もより大きなものになる、など今後の活動へ向けての意見交換を行った。

教職鴨台会 会員



三浦沙貴
2007年 人間福祉学科卒
区立白小学校



高德 忍
1981年 宗教学専攻修士課程修了
千葉大宮高校



樋口隆児
2010年 人間科学科卒
区立清和小学校



小出智明
2003年 仏教学科卒
駒込学園



杜多克慶
1978年 天台学卒
駒込学園



鳩原宗
2000年 史学専攻博士課程満期退学
宝仙学園中学高等学校



工藤邦彰
2003年 国文学専攻修士課程修了
区立富士見中学校



真泉光宏
1982年 国文学専攻修士課程修了
駒込学園



松平寛隆
1987年 仏教学専攻修士課程修了
淑徳巣鴨高校



大石 斉
1992年 史学専攻修士課程修了
駒込学園



滝沢和彦
教育人間学科長



情野このみ
2010年 歴史文化学科卒
武南高校



萩原貞宣
2008年 仏教学専攻修士課程修了
駒込学園



道心寮鴨台会智山派連絡協議会が 皆さんの仲間入りをします

今般、大正大学鴨台会に、サークルなどの小グループを公認組織として認定する「鴨台倶楽部」が発足したため、これまで組織化されていない道心寮を中心とする宗派別の同窓会組織を立ち上げたかどうかという話が学内で持ち上がり、去る5月12日午後6時より大正大学東鴨校舎1号館2階会議室において、道心寮智山派鴨台倶楽部設立準備会を開催しました。当日は、寮監・副寮監の先生方、第1期〜第21期までの道心寮卒業生の各期世話人計11人、関係教職員8名の合計19名が出席し、組織の立ち上げについて様々な意見が交わされました。

最終的に、まず組織化してみてもどうかという意見に収斂し、会長に第1期生で元寮監である北林照隆師、副会長に元寮監である小峰一成師、事務局長に第7期生である山川弘巳師を選出しました。その後会場を華興に移して、第1期寮監の枝井隆栄(旧姓井口)先生の乾杯の発声の下、懇親会がスタートし、道心寮での思い出話で大いに盛り上がりました。

なお、後の協議により、会の名称を「道心寮鴨台会智山派連絡協議会」とすることを決定しました。

会員数 **15名**

道心寮鴨台会 智山派連絡協議会

大正大学道心寮の真言宗智山派同期会を支援することを通じて会員相互の親睦と大正大学の発展に寄与すること。



昭和53年当時の道心寮



伝統を受け継ぎ80年 大正大学書道展開催

書道研究部創部八十周年・全国書道展六十回記念の大正大学書道展が銀座松坂屋カトリックサロン11月3日〜8日、また、祝賀会が11月3日18時より東京プリンスホテルで開催されました。

大正大学創立当初から、建学の精神である仏教と書の伝統を育んできた書道研究部は林祖洞先生、林錦洞先生、中村素堂先生、現部長の赤平泰処先生らの指導のもとに書道界に多くの書作家を送り、国立新美術館開催の貞香書展ではOB・OGが中心となって活躍しています。創部八十周年を迎えての展覧会だけに親、子、孫と歳の差をこえた大正大学書道研究部の伝統を受け継いだ書が約120点展示され大盛況でした。

また、祝賀会は学長、副学長、各学部長、全国書道展を後援している関連会社の方などの出席もあり、華やいだ雰囲気の中に開会。各卒業年度ごとに壇上が上がってスピーチがあり、書への情熱を語る人、学生時代の思い出を話す人、現況を報告する人、などさまざま...

最後に校歌を高らかにうたい現役学生と肩を組みエールの交換をし、大正大学と書道研究部の明日への一層の飛躍を誓い、次回にまた会うことを約束して、盛会の中にお開きとなりました。



会員数 **1000名**

大正大学 書道研究会旺美会

大正大学書道研究部OB会を鴨台倶楽部に登録することによって母校への支援と卒業生の親睦を交流を益々深めることを目的とする。



児童福祉の先駆者・留岡幸助の 生涯から学ぶことができました

社会福祉学会第35回大会は、7月10日に開催されました。今大会のテーマに「留岡幸助の生涯から学ぶ」を据え、留岡幸助の生き方、考え方、行動について考察する会となりました。

まず、本学の高橋一弘准教授が司会となり大正大学元教員の土井洋一氏(大阪府立大学名誉教授)と、東京家庭学校校長・松田雄年氏による対談が行われ、留岡幸助の思想と実践の特徴が語られました。さらに、卒業生である社会福祉法人北海道家庭学校児童自立支援部長・渡辺伊佐雄氏も加わり、北海道家庭学校の様子が紹介されました。

対談後は「大地の詩―留岡幸助物語―」(監督・山田火砂子)が上映され、留岡が「家庭学校」を開設したこと、後に北海道・遠軽にも家庭学校を設立し、とくに北海道家庭学校は現代に受け継がれていることなどが映し出されていました。映画と対談を通して児童福祉実践の先駆者である留岡幸助から大きな示唆が得られました。参加した在校生の1人は、北海道家庭学校で子どもたちとともに、子どもたちの自立支援、またその家族支援をしていきたいと目標を語っていました。この学生に限らず、大きな目標や夢を持ってもらえたい機会になったと確信しました。

尚、本大会の対談の内容は、本学会誌「鴨台社会福祉学論集第21号」に掲載される予定です。ご一読いただければ幸いです。

会員数 **3500名**

大正大学 社会福祉学会

本会は、会員の協力を持って、社会福祉に関する研究を推進する。



INFORMATION

医療福祉鴨台会が新設されました!

会員募集

医療・福祉・介護系職種に在勤している同窓生を中心に「医療福祉鴨台会」として鴨台倶楽部に申請し承認を得ました。一人でも多くの、医療関係、福祉関係、介護関係職種につかれています同窓生に参加して頂き、卒業生同士のビジネス交流会や同窓の絆を生かして懇親を深めて、同窓生活動の活性化をして参りたいと考えております。

登録方法

同封致しました登録申込用紙をFAXにて下記連絡先まで御連絡ください。また電子メール、電話にてご一報ください。「医療福祉鴨台会」の会員規約と今後の予定表をお送りいたします。

- 【連絡先】 株式会社ウイズネット内 事業管理部 高山善文 宛
- 【電話】 048-631-0300
- 【FAX】 048-631-1776
- 【携帯電話】 080-5889-7642
- 【メール】 yoshifumi_takayama@wis-net.co.jp





講演会講師
校友会室渡辺部長

復興に向けて心をひとつに 震災ボランティアから 感じる共生の心



震災ボランティアプロジェクト 3つの取り組み

- ① 街頭募金活動
- ② 被災地ボランティア活動
- ③ 同窓生慰問活動

INFORMATION

平成24年度 鴨台会
埼玉県支部総会開催日決定!

平成24年6月17日(日)

【受付】 午後4時30分
 【総会】 午後5時 開始
 【会場】 大正大学 大会議室 1号館2階
 【懇親会】 会費：1人5,000円
 ※総会終了後、懇親会を行います。

多くの方のご参加をお待ちしております。
 申込方法の詳細は、
 埼玉県支部会員の皆様へ別紙
 「平成24年度鴨台会埼玉県支部総会のお知らせ」を
 同封いたしましたのでご確認ください。

支部会 だより

平成22年度

栃木県支部

支部総会・公開講演会

平成23年度

埼玉県支部

支部総会・講演会



宮本慶通支部長



本学で行われた懇親会

仏像ガール登場！ 慈悲深い仏像の魅力に癒されて

大正大学公開講演

『でかけよう！ 感じよう！ 仏像の旅』



仏像ナビゲーター 仏像ガール

開会 13時



伴 乃昶支部長

仏像の出会いに感謝

栃木県支部では、今までにない新しい試みを行いました。それは全く違う視点を持った外部からのゲストをお呼びすることです。そこで講演をお願いしたのが、仏像ガールとして知られる廣瀬郁実さんです。廣瀬さんは今あらゆる分野で注目され、仏像との出会いや感じ方など、自分の経験を通じた新しい視点でお話をされています。

栃木県支部では同窓会員だけでなく、大正大学を広く一般の人に知ってもらおうこと、仏教が実はわたしたちの身近にあることを、知ってもらうために、仏像ガールの廣瀬さんという親しみやすい人にお話しをしてもらいました。

廣瀬さんのお話は「でかけよう感じよう！仏像の旅」をテーマに、仏像に出会ったこと、高校生生のときに訪れた三十三間堂で仏像の魅力にさらに引き込ま

れ、仏像の虜になった経緯などについてお話しされました。

廣瀬さんは、仏像は見るのではなく、会いに行く、「感じる」ことが大切ということを力説し、普段はあまり仏像に関わりのない人にも共感を呼びました。

仏像は見ているだけで、心を動かすかしてくれれます。そういう仏像の価値や、ありがたさ、慈悲深さを参加者みんなが再認識しました。

また、会員も「自分たちが仏像とどう関わってきたかについて、もう一度考えたいいい機会になりました」と新たな視点も得たようです。

仏像も、仏教も閉じたものではなく、開かれたものなので、そのことを考えることができました。とくに一般参加者からは、こういう機会を増やして欲しいという強い要望もあり、支部総会



スライドで紹介された仏像の数々

同窓生も震災支援に大きな決意

埼玉県支部は、東日本震災の影響で、9月3日(土)に総会を延期して開催しました。初めに宮本慶通支部長から、「これまでの『同窓会』の名称は今年から『鴨台会』に改められました。今まで以上に支部会員間のコミュニケーションを活性化し会員の裾野を拡げながら支部活動の充実を図っていきましょう」と力強いご挨拶がありました。それを受けて、会員一同これまでの事業計画についての反省を含めた意見や新しいアイデアなどについて真剣な議論がなされていました。

また、震災の影響から支部総会が延期されたことについて触れ、支部として、震災にあった被災者の方々にどのような支援の働きができるのか、というような課題提起がされました。

総会後に開催された「東日本大震災について」そのとき本学学

生は「と題した校友会室部長渡辺道夫氏の講演会では、本学の学生がいち早く災害の現場に駆けつけ、率先しボランティアに参加していたことなどが、その頼もしい姿とともに映像で紹介されました。

それを見た参加者たちは、想像以上の悲惨な現場の様子に驚きながらも、「素晴らしい学生たちだ！」と、そこで活躍する後輩たちの姿に感嘆の声を上げる人もいました。

講演終了後は、自然に拍手がこり、参加者たちは、心の底から感謝と感激しているようでした。みな、大正大学の在学生と自分、同窓生であることを誇りに思っていました。そして、ただ見ているだけではだめだ、自分たちも後輩に負けないように何かすべきだとし、支部でも個々でも、寄付を募ったり、ボランティア活動へ自

ら参加するなど、自分たちができることは何かを考えさせられる総会となりました。

初の在学生参加 次世代へ活動をつなげる

続いて懇親会が開催され、支部では初めての試みとして、在学4年生を10名招待しました。将来の埼玉支部を支える学生は、先ほどのボランティア学生たちの姿と重なり、みな頼もしく見えました。「自分たちの頃より、頼りになる」とか、「やはり新しい人が参加すると会が活性化する」という声が聞かれました。

今回は4年生だけでしたが、新入生やその友だちなど、大きく輪を広げていきたいとも話し合い、多に盛り上がりがありました。

仏像ガール

仏像ガール、廣瀬郁実さんのHPと2冊目の著書「仏像の旅」。



<http://buddha-girl.com>

震災直後全会一致で 災害救援を決定



梶原勇慈支部長

山梨県支部では東日本大震災の2日後の3月13日に、鴨台会を開催いたしました。
梶原勇慈支部長の挨拶の中で、震災直後にも係わらず支部会員が集まりいただいたことに感謝の意を述べられました。

また、校友会室部長渡辺道夫氏より大正大学の現況報告として、学部学科コース（4学部9学科18コース）により運営と中期マスタープランについての解説がありました。さらに、大学内で入学式を含めた初年度予定について協議中であるという報告も受けました。

中期マスタープランによる教育改革や教育環境の整備さらには、大学の地域貢献活動の実態など新しく生まれ変わる大学の状況説明がありました。

さらに大正大学を含めた豊島区内にある6大学を中心としたコミュニティカレッジづくり、それが豊島区との協同作業として目下進められています。

震災の直後でもあり、総会を延期してはという考えもありましたが、東北の同窓生のことを思い、総会を行うことを決めました。山梨県は幸いにも大きな被害を受けることがほとんどなかったこともあり、日常の生活を続けるなかで、できる限りの支援をする道を見出し出しているかと考えたからであります。

総会では事務連絡がありましたが、震災後まだ2日しかたっていないこともあり、話題の中心は震災に対してどう対応するかということが中心になりました。そこで以下のことをみんなで確認しました。

まず、思いは東北を向きつつ自治体や大学などの支援活動に呼応して、募金やボランティアなど、できる限りの協力をするということです。

今回の震災は本学の理念の一つである共生について考える機会になり、そしてそれを実行に移す必要があることを改めて確認しました。



千葉県支部の総会は、平成23年6月4日に、センシティブタワー23階東天紅で約50名が出席し開催されました。

太平洋沿岸の一部の地域と、臨海都市部で震災の被害を受けた千葉県。土川峰仙支部長挨拶で被害に遭われた方への追悼の意を表しました。今後も支部が一体となって震災支援を行うことを確認しました。総会では前年度の決算報告、今年度の予算案などの件が議題としてあがりました。また、榎副学長の挨拶に続き、柏木事務局長より大震災の広範囲の被災を鑑みて、大学としての対応についての説明があり、その後校友会室帆足課長より大学の震災支援の報告がありました。

研修会では、元法務教官・元八街少年院長でもあった門脇高次氏を講師に向かえ、「命と絆を見つめて、矯正施設から見える現代社会と家庭の問題」をテーマに講演がありました。

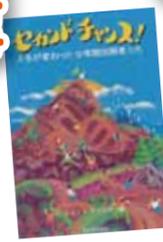


土川峰仙支部長

たちを囲む問題や、実情を社会全体で受け入れる世の中にする必要があると話され、そのためにも、まずは家族の絆も大切にと話されました。また話の中で、書籍『セカンドチャンス！』や、NPO法人セカンドチャンス！の日々の活動について紹介されました。「社会のために、自分もできることがあることがよくわかりました」「社会は家族の集まりで成り立っていることを知りました。参加してよかったです」などの声が聞かれました。

「セカンドチャンス！」
人生が変わった 少年院出院者たち
新科学出版社

こんな世の中 だからこそ、 家族の絆が大事



人のつながりを大事に、 支援を続けることを誓う



矢野正広氏による講演

栃木県支部では、6月4日に総会を23名出席のもと開催いたしました。
伴乃昶支部長の挨拶後、予算決算、規約の改正・役員改選についての全議案が承認されました。

その後の大学の報告では校友会室部長渡辺道夫氏より、大学のキャンパス整備状況とともに、東日本大震災における被災地ボランティア活動についてのお話がありました。

スライド上映での解説で、現地での悲惨な状況の中、ボランティア体験を通して成長していく学生の姿や、少しずつ復旧していく街の様子などの模様もあわせて紹介されました。参加者たちは、後輩たちの力強さや責任感の強さ、そして行動力に感心し、誇りに思っていました。

また、とちぎボランティアネットワークの矢野正広事務局長の「縁による支援」をテーマにした

講演がありました。縁とは人と人のつながりのことで、この縁によって社会が成り立っていることや、縁の大事さを改めて感じさせられました。

さらに、震災に対してのボランティアも、縁を感じてすることが大事だと話されました。

また、ボランティアは仏教の布施に通じる考えであり、お釈迦様はボランティアなどの布施を行わないものは悟れないとも話されました。

参加者たちは、仏教と縁、そして布施について考え、その考えの元、災害を受けた地域に対して支援を行っていくことを確認する機会になりました。



校友会室渡辺部長によるボランティア活動報告



北條哲成支部長

共生を実践 義援金を寄付



新支部長 三津田和行先生

鴨台会群馬支部総会は、6月16日に高崎ビューホテルで約30名が出席し開催されました。

北條哲成支部長の挨拶で、震災から3ヶ月たち、被災地復興はこれから継続的な支援が必要であることが再認識されました。

総会では、東日本大震災に対して大学教職員、学生と一緒に被災地に出かけ、ボランティア活動をしたことについての報告がありました。

大正大学では震災後早い時期から現地でのボランティア活動をしていることなどについて、参加者たちは、率先してボランティアにいくことと、その行動力に感心していました。

群馬県支部としても東日本大震災という非常事態を受け、2年に一度開催される公開講演会

費用100万円を義援金として寄付することを全会一致で決定致しました。「上毛新聞社東日本大震災被災者義援金」に寄付し、一日も早い復興を願いました。

大学の被災地でのボランティア活動の取り組みを受けて、会場に集まった会員誰もが、被災地の皆様のために何ができるのか、今できることを全力でやっという誓いをしました。

さらに私たちは義援金だけではなく思いや行動など、何ができるか、そして何をすべきかをみんなで話し合いました。被災地に対して、ずっと私たちが支えていくこと、共に生きていくことの思いを伝えつつ、1年、2年ではなく、長く支援し続けていくことを確認しました。

岩手県支部の震災支援 合同プロジェクト決定



菅野成寛 支部長
世界遺産の地で
総会開催

「毛越寺」様をお借りして、26名が参加のもと、6月22日に開催されました。毛越寺といえば、平安時代の有名な浄土庭園を残すことで有名な寺院です。大泉が池には浄土の水をたたえ、800有余年を経た現在も、樹木の景観と相まってなお変わらぬ美しさを見せています。そんな由緒ある寺院での総会は貴重なものと感じてなりません。

同窓生顧問合同プロジェクト決定
総会に先立ち同寺藤里明久執事長のお導師のもと、東日本大震災物故者に対し全員で般若心経をお唱えし、黙祷を捧げました。そして菅野成寛支部長のご挨拶後、立花裕子副支部長の開会の言葉に始まり、事業案等の審議と承認の後、同窓会名称を鴨台会への変更に伴う支部規約の改定が行われました。同時に校友会室部長渡辺道夫氏より、学事報告とともに東日本大震災



副島弘道先生による講演

大分県支部では、7月6日に別府市にあるホテルサンバリーアネックスで総会が開催されました。当日は26名が参加しました。まず、鴨台会発展のため尽力くださった、大橋定敏上人を追悼し、さらに東日本大震災で被災された方や、亡くなった方への追悼の意を込めて黙祷しました。小笠原義生新支部長の挨拶では、これからの支部運営についての抱負が語られ会員それぞれの今まで以上に自覚をもって活動することや自分の役割に見合った行動を確実にを行うことを確認しました。

今回は、大正大学学長・多田孝文先生による「日本人の心と仏教（東日本大震災によせて）」と題した講演がありました。震災では多くの人が亡くなり、また、多くの人が「残され」ました。4月に行われた震災ボランティアは、現地へ赴き活動を展開し

その時心が動いた —思いやりの心で臨んだ ボランティア活動—



小笠原義生 支部長

大分県支部では、7月6日に別府市にあるホテルサンバリーアネックスで総会が開催されました。当日は26名が参加しました。まず、鴨台会発展のため尽力くださった、大橋定敏上人を追悼し、さらに東日本大震災で被災された方や、亡くなった方への追悼の意を込めて黙祷しました。小笠原義生新支部長の挨拶では、これからの支部運営についての抱負が語られ会員それぞれの今まで以上に自覚をもって活動することや自分の役割に見合った行動を確実にを行うことを確認しました。

今回は、大正大学学長・多田孝文先生による「日本人の心と仏教（東日本大震災によせて）」と題した講演がありました。震災では多くの人が亡くなり、また、多くの人が「残され」ました。4月に行われた震災ボランティアは、現地へ赴き活動を展開し

善導寺修築で、 至宝を未来へ 伝える決意をあらたに



波多野聖雄 支部長

福岡県支部では、7月1日にヒルトン福岡シーホークホテルで、12名が出席し総会を開催いたしました。今回の総会には初参加の方もいらっしゃりまして、波多野支部長より、他の会員諸氏にも大いに又、積極的に参加してほしいとのメッセージを頂きました。次に校友会室部長渡辺道夫氏より東日本大震災へのボランティア活動の取り組みや現地での活動説明があり、一同その情熱と現場の状況の話しに聞き入りました。福岡県支部でも震災への惜しみない支援をすることを確認したところでした。

特別講演として今回は、福岡県久留米市善導寺について、本会の会員でもある大本山善導寺執事長、能原賢史氏による「今、甦る。善導寺平成の大改築秘話」と題して卓話を頂戴しました。善導寺は浄土宗大本山の一つであり、九州地区浄土宗教化の拠点でも有ります。本堂は九州に残る木造仏堂としては最大級のもので、堂々たる佇まいです。同寺院は国の重要文化財建造物として指定されています。

そのような善導寺の修築工事の様子を、映像と共に工事の苦勞話や進捗状況などを解説されました。

今回私たちの身近に、このように至宝があることを改めて再確認し、同時に、私たちが接するお寺の素晴らしさを知り、この至宝を後世に伝える責任をみんなが強く感じた総会となったようです。



平成18年9月
大庫裏の瓦葺きのようす



TSRシップ 鴨台ボランティアプロジェクト 全面的支援を確認



山口道雄 支部長



北海道第一支部の総会は、9月3日に、11名参加のもと函館の夜景が一望できるホテル函館山で開催しました。山口道雄支部長の挨拶で始まり、総会へのより多くの会員参加を呼びかけての開催となりました。続いて東日本大震災で被災された方へ哀悼の意を表し黙祷を捧げました。

校友会室竹林守司次長から大学の近況についての報告があり、そして、東日本大震災でのボランティアプロジェクトについては、鴨台ボランティアプロジェクトが開始されたことについてお話がありました。

鴨台ボランティアプロジェクトとは、大正大学が進める震災ボランティア活動のことです。今後は、被災地の経済復興を目的に「東北復興 ゆめ多幸鎮 オクトパス君」の販売支援もしていく予定です。鴨台ボランティアプロジェクトには希望者が多数集まったことや、現地での活動についても事前研修を受けしっかりと準備をして行ったことなどを説明されました。

在校生の積極的な姿勢や、行動力、そして強い気持ち、校友会室竹林守司次長の話から強く伝わりました。そのお話しに、会員みな真剣に耳を傾け、私たちも継続的な支援を積極的に行っていかねばならないと思えました。「後輩に教えられることが多いですね」「こんな後輩を持って誇りに思います」と話し、後輩たちの活躍を知る非常に有意義な会になりました。

最後に、北海道第一支部では、鴨台ボランティアプロジェクトを全面的に支援、協力していくことを参加者みんなが確認しました。



廣澤隆之教授による講演



清水敏孝支部長

葬儀を通して、現代の仏教を問う

仏教学科 廣澤隆之教授による仏教の本質に迫る講演

報道の通り、茨城県も東日本大震災の被害を受けました。また、原子力発電所も抱えています。東北地方の同窓生の方々とその想いは同じです。

そうした中で、茨城県支部総会は10月25日、水戸プラザホテルで開かれました。24名の会員が出席し、清水敏孝支部長の総会進行で、平成22年度事業ならびに決算及び平成23年度の事業案、予算案が承認されました。

総会中、校友会室部長渡辺道夫氏から、今回の震災に対して示した大正大学の姿勢と被災地でのボランティア活動の様子について詳細に報告されました。母校が学生や被災された方、地域の方の生活を最優先に考え、入学式を延期し、総勢150名からなるボランティア隊を派遣したこと、復興と笑顔回復のために昼夜を問わず活動したこと、などの説明に、被災を受けた茨城に住む者として頭が下がる思いがしました。各大学が対応を模索

している中で、母校が他大学にさきかけて組織的に行動したこと。こうした一連の活動ができたのは、建学の精神が支柱にあつたからに他なりません。あらためて母校のことを誇りに感じ、その活躍に感激に似た心の高揚がありました。

総会終了後、仏教学科教授廣澤隆之先生による「現代における葬儀の意義」最近の葬式不要論をふまえて」と題した研修講演が行われました。講演では、葬式不要論の論者が魂の行き先を明確にしないなど、葬式不要論者と実際に議論をされた先生の視点から現代に流行る葬式不要論の脆弱さを指摘。さらに、自然葬と言われるものが何をもち自然とするのか、葬儀の本来の意義や意味はなにか、翻って既成佛教である我々僧侶側にも反省と真摯な対応が求められるのではないかと貴重な示唆をいただきました。ジョーク・ユーモアを織り交ぜ、楽しく、かつ、多

くのことを考えさせられた研修会でした。

懇親会では、事務局長柏木正博氏より、大正大学が「週刊東洋経済」「ニッポンの大学トップ100」にランク入りしたことが紹介され、会場から大きな拍手が沸き上がりました。また、入学者が年々増加しているとの報告もありました。学生たちの努力はもちろん、教職員の方々が精力的に大学改革に取り組んできた結果でしょう。嬉しい報告の数々に、懇親会が大いに盛り上がったことは言うまでもありません。私たちも大正大学の一員である。その喜びが頂点に達して、会場は昔話に花が咲きました。母校の躍進ぶりに同窓生も負けてはいられない。復興や地域貢献、それぞれの立場で頑張っていかなければいけない。決意をあらたにした1日でした。



愛媛県支部
大森真也事務局長



「いい加減のすすめ」ひろさちや先生が講演

“4つの人となる”の教えを地域社会の人々と共有

「いい加減」に生きるとは

“地元を元気にするために、私たちにできることはなにか。”

このことが愛媛県支部白石大峰支部長と大森真也事務局長ならびに二神先生はじめ役員の方々の発案により今回の公開講演会が企画されました。中国・四国地方は、震災や原発事故の直接の被害はないものの、雇用や地域産業の活性化など、他の地域同様の課題を抱えています。生きるということが難しくなってきた時代に、仏教の心、大正大学の精神を地域社会に広めることがなにより大切と考え、「いい加減のすすめ」というタイトルで講演をお願いしました。

ひろさちや先生は本学の客員教授。平易な言葉で多数の入門書を執筆し、一般の人々に仏教を身近なものとして再認識させ、宗教評論家として活躍されています。

同窓生のネットワークを活用し、地域の一般の方々に声をおかけしました。この結果、講演2週間前頃から申込者が殺到。公開講演会当日の11月17日、会場の松山ワシントンホテルプラザには、一般参加者約130名と同窓生を合わせて約180名の来場者がありました。多くの方は先生のことをご存知でしたが、中にはこの講演で初めて知ったという方もいらっしました。その橋渡しをすることができただけでも、企画した甲斐

があつたと思っています。

講演はユーモアたっぷりでした。時間が経つのを忘れるほどでも、高価なグラスなら美味しく感じるし、汚れたグラスでは味も半減。つまり、幸・不幸の状況は、その人の思い込み、捉え方によって違ってくるものだと言いは説きます。心の持ちようがいかに大切かということであらためて感じました。さらに、「がんばろう」ということが日本中で叫ばれていますが、ではなんのためにがんばらばいいの。人のためにがんばった満足は長く続きますが、自分の利益のためであれば満足は一瞬です。もっと美味しいお酒を飲みたいとか、お金を儲けたいとか欲望はどんどん続いていきます。つまり、より良い生き方はこのバランスが大切。心の持ちようは「いい加減(＝良い塩梅)」が肝心ということ。このお話を聞いていて、まさに「4つの人となる」という言葉が浮かんできました。「慈悲」「自灯明」「中道」「共生」の考えにつながると感じました。来場者の皆さんは、笑ったり、うなずいたりしながら、先生のお話に聞き入っていました。仏教の心、そして本学の精神が、来場者の方々の心に深く響いているのを実感しました。

新たな出会いが生まれ、輪が広がる

また、公開講演会に先立ち、多田孝文学長が挨拶。その後、大学の校友会室部長渡辺道夫氏よりスライドを使って、本学の東日本大震災支援ボランティアにおける学生・教職員の健闘ぶりが紹介されました。このことも、建学の精神とそれを実践する姿を、来場者に印象づける有効な機会となりました。

総会では、平成20年度以来本学の志願者数が右肩上がりが増加していること、「週刊東洋経済」「ニッポンの大学トップ100」にランク入りしたことなどが報告されました。同窓生としても、これからは母校のことを広く一般にアピールしていかなければいけないと感じました。そして、懇親会は盛大かつ和やかに。講演者であるひろさちや先生もご参加いただきました。

久しぶりの参加の方もいらして同級生が東京から愛媛に引越して来たことをここで初めて知った、数十年ぶりに会った、など多くの出会いがありました。地方に住んでいると、どうしても交流する人が限られてしまいます。参加してみないと同窓会活動の良さはわかりません。来年はさらに多くの方々とお会いできることを期待しています。

地域の人々に多彩なジャンルの文化・教養を発信

五感に響け！鴨台コンサート



野田義道支部長



11月12日松阪市・樹敬寺本堂でのコンサート

日比野俊道先生と地元音楽団体が競演

私たちの周りには、未だ触れ
たことのない素晴らしい文化・教
養・芸術の世界があります。これ
らを地域の方々に紹介するとと
もに、大正大学の存在をさらに
知っていただくとうと、三重県支部
はこれまで平成21年度「仏教」、
平成22年度「書」をテーマとした
公開講演会を開催してきました。
野田義道支部長と菅生和光副
支部長を中心に、これまでにない
テーマの公開講演会を検討し
ていたところ、役員の一人在「日
比野俊道先生に来ていただけない
だろうか」と提案。大正大学の
恩師・日比野俊道先生はマンド
リン界の重鎮であり、「日比野マ
ンドリン研究所」「日比野マン
ドリンアンサンブル」を主宰し、86
歳の今も現役で活躍されてい
らっしゃいます。同窓生の縁を
頼りに出演をお願いしたところ
快諾。また、障がい者で結成され

た芸術・創作集団「まつさかチャ
レンジドブレイス 希望の園」の
ほか、「上野高校ギターマンドリ
ン部(伊賀市)」「WAKO音楽ア
ンサンブル」の出演も決まり、大
正大学のネットワークと地元音
楽団体の競演という素晴らしい
コンサートが実現しました。
11月12日に松阪市・樹敬寺山
下法彦先生より本堂をお借り
し、翌13日には名張市・アドバ
ンスコープADSホールで開催。
両日合わせて600名を超える
来場がありました。

とを、同窓生たちはあらためて
誇りに感じていました。
来場者は「素晴らしい演奏
だった」「心が和んだ」と口を揃
えて絶賛。一般市民の中には、音
楽関係、教育関係者の姿も。鴨台
会を軸に、さまざまな人たちが
集い、心豊かな世界を共有する。
そして交流の輪を広げる。この
催しで、地域の絆がさらに深
まっていきました。
優れた音楽家であるとしても
に、浄土宗善勝寺住職を務める
日比野先生。その宗教家として
の顔を垣間見る場面もありまし
た。1日目の会場となった樹敬
寺先代住職(故人)とは、教区長
会議を通じて面識があったこと
ができてありがたいと、先生は
指揮台に輪装姿を付けて登壇。
先生のお心に触れ、演奏がいつ
そう心深く響いてきました。



11月13日に行われた名張市での上野高等学校ギターマンドリン部によるマンドリン演奏(ADSホールにて)

同じ被災地に住む同窓生として

懇親会は、松阪市、名張市、そ
れぞれの会場において行われま
した。

松阪市では、当地ならではの
サブライズも。テレビドラマ「高
校生レストラン」は、相可高校
(三重県多気町)の生徒たちが運
営する「まごの店」がモデル。当
日はここで販売されているお弁
当を囲んでの宴となりました。
教員として同高校に勤務した経
験がある同窓生がいて会話が一
気に弾んでいきました。
名張市でも、あらたなご縁が。
今回のコンサートでは、県下の
音楽界で活躍されている菅生和
光副支部長にお力添えをいただ



日本テレビドラマ『高校生レストラン』の
高校生が制作・販売しているお弁当

きました。が、実は菅生副支部長
は多田学長と同じ時期に銀杏並
木の下を歩いていたとのこと。
さらに歓談が進むうち、同じ研
究に携わっていたこともわか
り、しばし会場は驚きと喜びに
包まれました。

また、今回の催しでは、大学の
東日本大震災支援活動に協力す
るため、コンサート会場に義援
金箱を設置。加えて、来場者へお
土産として「ゆめ多幸鎮オクト
パス君」を手渡しました。校友会
室部長渡辺道夫氏からも、
TSR鴨台ボランティアアプロ
ジェクトの報告がありました。
事が起これば躊躇なく動く。そ
んな母校の活躍ぶりに同窓生た
ちは感激するとともに、その一
端に協力できたことに喜びを感
じていました。

三重県支部では、これからも
さまざまなジャンルの文化・芸
能の情報発信を続けていく構想
です。さらに多くの同窓生が集
い、心の輪、出合いの輪を広げて
いきたいと思います。



日比野マンドリンアンサンブルのメンバーによる演奏



WAKO音楽アンサンブルのメンバーによる演奏(中央:菅生和光副支部長)



凛々しくタクトを
振る日比野俊道先生



まつさかチャレンジドブレイス
「希望の園」のメンバーによる演奏

同期会だより

三宮君に感謝しつつ、 哀悼の意を表す

昭和55年卒業宗教学同期会は、悲しい同窓会になりました。それは東日本大震災により、陸前高田市荘厳寺、三宮昌弘住職と長女真美さんが津波により亡くなったことを同窓生が知ったからです。

旧友との交流が行われる同期会。仲間たちに会うと学生の頃にタイムスリップした気分になれますね。いつまでも大切にしたいひとときです。そんな同期会からの報告をご紹介します。

昭和55年 宗教学同期会



4月27日に三宮君の葬儀が自坊で執り行われ、同級生4名が出席いたしました。出席できない同級生たちは「大正大学 東日本大震災追悼の集い」に参列し三宮君、真美さんをはじめ亡くなった方々のご冥福をお祈りいたしました。また、三宮君が多くの精霊を僧侶として先導していただければとも願いました。その後、星野先生を囲み懇親会を開きました。30年ぶりに逢う同級生もいて、これは三宮君が引き合わせてくれたに違いないと感じ、生前のやさしいまなざしを思い出しつつ、同級生として再会を誓いました。悲しい同窓会ではありましたが、人との縁が大事であると強く感じ、三宮君に感謝しました。最後ではありますが、改めて被災され、尊い生命を失われた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災者皆様に対して、心よりお見舞い申し上げます。また、残された三宮君の奥様、お子様に心よりお見舞い申し上げます。

各宗派との交流があつてこそ、 重く実りある話が出るのです

昭和57年度卒業生(道心寮2期生)「银杏の会」は、6月4日に建設中の東京スカイツリーを目前に眺望できる浅草の日本料理店「望月」で開催されました。当初、震災によりさまざまな行事が中止になる中、银杏の会も自粛した方がよいのではという雰囲気ではありましたが、普段通り生活して、いつも通り消費生活をすれば東北地方の経済活性化につながるという意見もあり、開催することを決定しました。参加者は9名(浄土宗1名、真言宗智山派2名、豊山派4名、天台宗2名)で、地震、原発事故、義援金、ボランティア活動、および、その後、近況報告、道心寮のなつかしい話、寮の原点回帰などについて、昔話だけではなく、私たちのこれからの生き方にまで話は及びました。



昭和57年 银杏の会

このように毎回、深く重く実りある話が出るのも、各宗派との交流があつてこそだと参加者たちは強く実感した会となりました。震災によって人とのつながりやいろいろな垣根を越えることこそ大切であると参加者は実感しました。银杏の会には、福島県人もいて、原発事故による放射能汚染や風評被害の影響で、残念ながら今回、参加頂けなかった方もいます。原発事故の早期終息と無事を一同、祈念するとともに、またの再会を強く誓いました。

44番目の
支部が誕生
しました!



同窓生でつながろう 和歌山県支部が誕生しました

44支部で全国網羅!!

鴨台会の新しい支部「和歌山県支部」が誕生しました。この44支部をもちまして全国47都道府県を網羅することができました。

同窓生稲葉敏彦さんが中心となり、和歌山県在住の支部会員59名に支部設立趣旨の手紙をお一人ずつ送って賛同を得て、平成23年10月にはれて和歌山県支部が発足しました。

自分たちの関心のあるテーマや、社会貢献できる課題で活動を広げていきたいです。

同窓生の方々は、和歌山県支部を活発に利用していただければと思います。和歌山県在住の大正大学の卒業生の皆さま、和歌山県支部総会に奮ってご参加ください。

社会福祉学専攻

平成8年卒業

「银杏社福の会」と命名し、 その第1回開催となりました

平成8年社会福祉学専攻卒業生の卒業15周年となる同窓会を、2号館の8階で、9月10日に開催されました。

会場となった母校は、礼拝堂、银杏並木などは皆が学生だった頃と変わらず、参加者はすぐに学生のときの気持ちと笑顔に戻りました。また母校とのつながりを大切にしたいという想いも強く、私たちの同窓会名を「银杏社福の会」(ぎんなんしゃふくのかい)にしました。

当日は、石川到覚、落合崇志、岸功、野坂勉、吉澤英子の先生方(50音順)をはじめ、同窓生15名、そのお子さんも3名参加、計23名が参加されました。



卒業後は皆、それぞれの人生を歩み、福祉に携わっている人、役所の職員、お寺の住職、主婦などさまざまでした。15年の月日を超えて皆、和やかに楽しく、そして貴重な交流の場になりました。同期会はさながら異業種交流会のようでしたが、みな大正大学の卒業生であるという強いつながりを確認しました。

最後に、「鴨台会」からの助成金ならびに、会場や物品の借用など青木様には大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。

共学の会

初めての同期会で仲間の 大切さが身にしました

昭和59年に大正大学に入学し、道心寮で苦楽を共にし、同じ釜の飯を食べた天台宗の仲間を中心とした同期会が、栃木県の鬼怒川温泉あさやホテルで7月5日、卒業後初めて開催されました。なぜ卒業後23年という年月を経て同期会を開くことになったかという、同期の会員の晋山式の際に、東日本大震災で被災した仲間を励ましたいという気持ちを皆が持ったからです。当日は久しぶりの再会に旧交を温めました。

被災地で暮らす同期の話では、福島の方の寺院では約8割、栃木の友人の寺院では約6割の墓地が倒壊しているということで、被害の大きさに改めて愕然とさせられました。



地震がきっかけで初めての同期会を開催することになったのですが、懐かしい思い出や、道心寮での一年間の生活などで話に花が咲き、皆、大学生の顔に戻って楽しいひと時を過ごしました。仲間がいることをうれしく思い、こうして長く同期会を開かなかったのですが、また近いうちにみんなで会おうと誓いました。辛いときも、楽しいときもこうして同期と会えることをとても幸せに感じた会でした。

また、最後に被災地の1日も早い復興と、鴨台会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

村瀬先生の震災心理支援 それぞれの立場でできることを

カウンセリング研究所・大学院ならびに学部の卒業生と教員、さらに在校生が集う交流会が、去る11月6日に学内2号館8階を会場として開催されました。当日はあいにくの天候ながら、47名の出席者を得ることができました。お子様連れでお越しくださいました方もおられ、幅広い年齢層が集う賑やかな会となりました。

今年3月に起きた東日本大震災への支援について、参加者の多くから話題に上りました。村瀬嘉代子先生は、震災後まもなく立ち上がった東日本大震災心理支援センターのセンター長として、長期に亘る支援に奔走されておられるお立場からご挨拶くださいました。現実にはあらゆる要因が絡む難しい問題が多く、専門知識のみならず広いジェネラルアーツが必要であるとのお話に、会場の皆がそれぞれの立場でできることは何かと自問しつつ伺いました。

平成23年度 カウンセリング研究所・ 臨床心理学専攻 交流会



さらに今年度の会では、大学の鴨台倶楽部登録にあたり、会長以下三役の選出および承認を行いました。(会長:清水隆善先生/副会長:佐藤隆一先生/事務局長:廣川進先生)。今後も、新旧の交流を深め、参加者同士の情報交換やネットワーク作りの場として活用いただける会となるよう願っています。

同期会を開催しませんか？

鴨台会本部では、同期会開催にあたり費用の助成をしております。また大学内での場所の提供もしております。

詳しくは
大正大学 校友会室まで

03-5394-3031

バレーボール同好会 結成30周年を迎えました

バレーボール同好会OB会(第1期)を9月3日に東京・池袋の居酒屋「京宴」にて行いました。

会員は昭和56年にバレーボール同好会が設立された当時の会員で、13名が名を連ねており、これまでには平成21年の秋に第1回を開催し、以降年2回程度OB会開催し、情報交換を行い、旧交を温めています。今回は会員12名のうち、7名が参加しました。会議では「鴨台会」への登録と、今後の活動について話し合いを行いました。「鴨台会」への登録については、当日参加できなかった他の会員の意見も聞きながら登録をする方向で検討していくこととなりました。

平成23年はバレーボール同好会結成30周年でもあり、会にとっては節目の年でした。30年は長いようで短くもあり、社会も大きく変化しましたが、同窓生が集まるとタイムスリップして大学生の気持ちに戻ります。

そして、まず次回は平成24年1月にOB会を開催することを決定、懇親会や合宿など、さらに活発な活動をしていきたいと考えています。

バレーボール 同好会

平成23年度 大正大学鴨台会理事会議事録

平成23年5月26日(木)本年度大正大学鴨台会理事会が開催された。上程された議案と審議内容は左記の通り。

1. 役員(一部)選出の件

左記の支部において、支部長が交代され、鴨台会本部役員理事・常任理事として選出された。

2. 平成22年度事業報告の件

3. 平成22年度決算の件

青野議長(常任理事、岡山県支部長)より平成22年度事業

報告、決算の2議案については、一括して審議する旨の発議があり、一括審議することとなった。大正大学校友会室渡辺部長より報告と説明がなされた。事業報告では特に総会20回、公開講演会5回、同期会18回が行われ去年より上回る支部活動があったことが報告された。決算では会計指導により、積立金は支出計上後、「資産」として次期繰越金に含める形で決算を行った旨の説明がなされた。決算の説明後、波母山繁信監事(大正大学総務部長)より、



程改正(案)、「大正大学鴨台会本部事務局規程(案)」が審議された。「大正大学鴨台会会則改正(案)」の改正要旨

1. 従前の「大正大学同窓会(鴨台会)」を「大正大学鴨台会」と名称の変更を行う。(会則名称、第1条)
2. 従前の「登録鴨台会」を「鴨台俱樂部」と名称の変更を行う。(第8条、第23条、第24条)
3. 役員に欠員が生じた場合の補充に関して、詳細に規定する。(第10条)
4. 別表の常任理事員数表の「部会」を「鴨台俱樂部」に改める。(別表)

1条、第2条、第4条、第5条、第6条、第8条

3. 都道府県支部および鴨台俱樂部に対する助成について定める。(第7条)

「大正大学鴨台会本部事務局規程改正(案)」の改正要旨

1. 大正大学同窓会会則の改正に伴い、規程の名称を従前の「大正大学同窓会本部事務局規程」を「大正大学鴨台会本部事務局規程」と規程名の変更を行う。(規程名称)
2. 大正大学同窓会会則の改正に伴い、条文の整合を行う。(第1条)
3. 本部の運営体制、執行体制、事務分掌の明文化を行う。(第2条、第3条、第4条)
4. 規程の改廃について、会議体の整合を行う。(第5条)

役員(一部)選出の件

山形県支部	高梨 良興	支部長/本部役員	理事
後任	渋谷 信一	支部長/本部役員	理事
栃木県支部	伴 乃昶 ※1	支部長/本部役員	常任理事
後任	塚田 宗雄	支部長/本部役員	常任理事
群馬県支部	北條 哲成 ※2	支部長/本部役員	常任理事
後任	三津田 和行	支部長/本部役員	常任理事
埼玉県支部	吉田 宏誓	支部長/本部役員	副会長
後任	宮本 慶通	支部長/本部役員	常任理事
埼玉県支部	宮本 慶通	副支部長/本部役員	理事
後任	清水 英雄	副支部長/本部役員	理事
神奈川県支部	本間 孝康	副支部長/本部役員	理事
後任	高島 善隆	副支部長/本部役員	理事
愛知県支部	安部 隆完	支部長/本部役員	常任理事
後任	村上 圓竜	支部長/本部役員	常任理事
広島県支部	浅野 良光	支部長/本部役員	理事
後任	能登原 昌史	支部長/本部役員	理事
大分県支部	寺田 豪明	支部長/本部役員	理事
後任	小笠原 義生	支部長/本部役員	理事
宗派代表	服部 賢昌	本部役員	理事
後任	陶山 義憲	本部役員	理事

本部役員任期は、前任者の残任期間である平成25年3月31日までとする。
※1 栃木県支部長は H23.6.4 の支部総会にて任期満了により 伴 乃昶氏 から変更
※2 群馬県支部長は H23.6.16 の支部総会にて任期満了により 北條哲成氏から変更

監査報告がなされた。監査の結果、適正に会計処理がされていた旨の報告があった。その後、質疑を行い、原案通り可決された。

4. 大正大学同窓会会則改正(案)の件

本則である「大正大学鴨台会会則改正(案)」、関連規程である「大正大学鴨台会都道府県支部および鴨台俱樂部に関する規程」に名称の変更を行う。(第5条)

「大正大学鴨台会本部事務局規程改正(案)」の改正要旨

1. 大正大学同窓会会則の改正に伴い、規程の名称を従前の「都道府県支部および登録鴨台会」を「大正大学鴨台会」を「大正大学鴨台会」と名称の変更を行う。(規程名称)
2. 規程中の「大正大学同窓会(鴨台会)」を「大正大学鴨台会」、「理事総会」を「理事会」、「登録鴨台会」を「鴨台俱樂部」に名称の変更を行う。(第5条)

改正要旨説明後、質疑が行われ、「大正大学鴨台会本部事務局規程(案)」の第3条について、文章上の整合が取れないとの指摘があり、一部修正の後、可決された。大正大学鴨台会会則が改正されたことを受けて、欠員となっていた第3ブロック選出の副会長1名の選出を行い、茨城県支部 清水敏孝氏を副会長として決議された。

5. 平成23年度事業計画(案)の件

青野議長より平成23年度事業計画(案)、予算(案)の2議案については、一括して審議する旨の発議があり、一括審議することとなった。

6. 平成23年度予算(案)の件

渡辺部長より、事業計画が提案された。事業計画は次のとおりである。

1. 「大正大学鴨台会会報」の発行
2. 支部活動活性化の促進
3. 「鴨台俱樂部」団体申請の促進
4. 在学生支援事業の充実
5. 会員データの維持管理及び会員名簿整備
6. 東日本大震災支援に係る取組
7. その他の事業

この件は原案通り可決された。7. 東日本大震災支援対策(案)の件

まず、被災地である宮城県支部支部長 樋口隆信氏より、東日本大震災時のお話と見舞金に対する御礼があり、継続的な支援の要請が行われた。

8. その他

① 同窓会設立60周年記念事業の件

戦没者慰霊碑の建立並びに宗教施設の建設について提案された。特に柏木事務局長より、現在計画している宗教施設「さざえ堂」の内壁デザインを画家の千住博氏にお願いすることとなり、2,000万円を原画を描いていただくこととなった。同窓会設立60周年記念事業として、この原画を同窓会として

購入いただき、大学に寄贈していただきたい旨の依頼がなされた。なお、詳細については、秋口まで事務的に検討させて頂き、9月頃常任理事会にて認めて頂き、実行に移す旨の説明がなされ、全会一致で承認された。

② 鴨台俱樂部申請団体承認の件

鴨台俱樂部の申請12団体の登録について審議され、一部申請人数を修正の上、可決された。承認された団体は左記のとおりである。

大正大学鴨台会 本部役員一覧

平成23年10月現在

本部役職	理事氏名	支部役職
1	会長 里見 達人	東京都支部長
2	副会長 樋口 隆信	宮城県支部長
3	副会長 清水 敏孝	茨城県支部長
4	副会長 寺本 亮洞	東京都副支部長
5	副会長 西郊 良光	神奈川県支部長
6	副会長 重森 俊道	福井県支部長
7	副会長 山田 瑞祥	大阪府支部長
8	常任理事 井畑 定孝	北海道第二支部長
9	常任理事 調整中	秋田県支部長
10	常任理事 塚田 宗雄 ※1	栃木県支部長
11	常任理事 三津田 和行 ※2	群馬県支部長
12	常任理事 宮本 慶通	埼玉県支部長
13	常任理事 土川 峰仙	千葉県支部長
14	常任理事 加藤 精一	東京都副支部長
15	常任理事 清水 博雅	東京都副支部長
16	常任理事 糸原 勇慈	山梨県支部長
17	常任理事 安井 隆義	静岡県支部長
18	常任理事 村上 圓竜	愛知県支部長
19	常任理事 青野 義昭	岡山県支部長
20	常任理事 波多野 聖雄	福岡県支部長
21	常任理事 疋田 精俊	宗派代表
22	常任理事 木村 秀明	教員代表
23	常任理事 静永 純一	鴨台俱樂部
24	理事 山口 道雄	北海道第一支部長
25	—	青森県支部長
26	理事 菅野 成寛	岩手県支部長
27	理事 渋谷 信一	山形県支部長
28	理事 遠藤 顕道	福島県支部長
29	理事 清水 英雄	埼玉県副支部長
30	理事 松崎 恵水	千葉県副支部長
31	理事 福西 賢兆	東京都副支部長
32	理事 高島 善隆	神奈川県副支部長
33	理事 籠島 浩恵	新潟県支部長
34	理事 泉 清孝	富山県支部長
35	理事 水元 栄運	石川県支部長
36	理事 兼子 展世	長野県支部長
37	理事 楢生 康文	岐阜県支部長
38	理事 野田 義道	三重県支部長
39	—	滋賀県支部長
40	理事 田中 良昌	京都府支部長
41	理事 村田 俊明	兵庫県支部長
42	理事 桂 大瀧	奈良県支部長
43	理事 福葉 敏彦 ※3	和歌山県支部長
44	理事 米田 良中	鳥取県支部長
45	理事 近江 隆寛	島根県支部長
46	理事 能登原 昌史	広島県支部長
47	理事 加藤 善雄	山口県支部長
48	理事 松下 龍雄	東四国支部長
49	理事 白石 大峰	愛媛県支部長
50	理事 海老塚 和秀	高知県支部長
51	理事 里見 秀明	西九州支部長
52	理事 上田 祐規	熊本県支部長
53	理事 小笠原 義生	大分県支部長
54	理事 野中 玄雄	南九州支部長
55	理事 池田 宗讓	宗派代表
56	理事 陶山 義憲	宗派代表
57	理事 服部 光喜	宗派代表
58	理事 塩入 法道	教員代表
59	理事 廣澤 隆之	教員代表
60	理事 廣川 亮敏	教員代表
61	理事 赤平 和順	鴨台俱樂部
62	理事 下村 清智	鴨台俱樂部
63	理事 渋谷 昌彦	鴨台俱樂部
64	監事 長島 尚道	東京都副支部長

本部役員任期は、前任者の残任期間である平成25年3月31日までとする。
※1 栃木県支部長は H23.6.4 の支部総会にて任期満了により 伴 乃昶氏 から変更
※2 群馬県支部長は H23.6.16 の支部総会にて任期満了により 北條哲成氏から変更
※3 和歌山県支部長は H23.10.15 の支部総会にて選任 (H24年度理事会にて報告予定)

平成23年度 大正大学鴨台会予算書

自：平成23年4月 1日
至：平成24年3月31日

前期繰越金	91,203,413
-------	------------

資料1 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 終身会費	31,087,500	31,567,500	△ 480,000	4,145名@7,500円
II 助成金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	大学からの助成金
III 預金利息	1,200,000	2,350,000	△ 1,150,000	普通預金、定期預金、債券
IV 雑収入	50,000	50,000	0	賀儀等
V 繰越金	0	23,764,551	△ 23,764,551	会計指導により繰越金は「当該年度収入」ではなく「資産」として扱う為0円計上し、前期繰越金に含める
合計	34,337,500	58,732,051	△ 24,394,551	

資料2 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I 支部等事業費	20,000,000	25,850,000	△ 5,850,000	
1、会報発刊費	4,500,000	4,050,000	450,000	会報・会報用封筒作成費、年1回発行予定
2、会報・鴨台等発送費	3,000,000	6,300,000	△ 3,300,000	会報1回発送他
3、講演会費	1,500,000	4,000,000	△ 2,500,000	公開講演会
4、旅費交通費	4,000,000	5,500,000	△ 1,500,000	理事会・常任理事会旅費、役員・講師等、出張費を含む
5、支部等事業助成金	7,000,000	6,000,000	1,000,000	支部、鴨台倶楽部等助成金
II 在学生支援事業費	8,417,000	8,145,000	272,000	
1、新会員歓迎費	3,417,000	3,345,000	72,000	卒業・修了予定 1,139名@3,000円
2、在学生助成金	4,500,000	4,300,000	200,000	在学生奨学金 200万、クラブ助成 200万、謝恩会等助成 50万
3、银杏祭補助金	500,000	500,000	0	银杏祭実行委員会へ支出
III 本部運営費	5,800,000	7,400,000	△ 1,600,000	
1、会議費	3,000,000	3,500,000	△ 500,000	理事会・常任理事会・役員会等
2、事務費	1,800,000	1,500,000	300,000	
3、通信費	500,000	500,000	0	
4、慶弔費	200,000	500,000	△ 300,000	
5、消耗品費	100,000	100,000	0	
6、雑費	100,000	300,000	△ 200,000	
7、渉外費	100,000	1,000,000	△ 900,000	
IV 積立金	0	15,000,000	△ 15,000,000	会計指導により積立金は支出ではなく「資産」として扱う為0円計上し、次期繰越金に含める
V 予備費	120,500	2,337,051	△ 2,216,551	
合計	34,337,500	58,732,051	△ 24,394,551	
災害対策支援費	15,000,000	0	15,000,000	東日本大震災対策支援金

△：前年度予算額に対する減額

次期繰越金	76,203,413
前期繰越金①	91,203,413
収入の部合計②	34,337,500
支出の部合計③	34,337,500
災害対策支援費④	15,000,000
差引残高(①+②-③-④)	76,203,413(平成24年度へ繰越)

平成22年度 大正大学同窓会決算書

自：平成22年4月 1日
至：平成23年3月31日

前期積立金繰越	64,131,223
---------	------------

資料3 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 終身会費	31,567,500	30,355,000	△ 1,212,500
II 預金利息	2,350,000	2,393,297	43,297
III 賛助会費繰入	0	143,880	143,880
IV 雑収入	50,000	60,000	10,000
V 繰越金	23,764,551	23,764,551	0
VI 助成金	1,000,000	1,000,000	0
合計	58,732,051	57,716,728	△ 1,015,323

資料4 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 支部等事業費	25,850,000	19,016,609	△ 6,833,391
1、会報発刊費	4,050,000	4,042,500	△ 7,500
2、会報・鴨台等発送費	6,300,000	5,004,937	△ 1,295,063
3、講演会費	4,000,000	1,250,000	△ 2,750,000
4、旅費交通費	5,500,000	3,089,130	△ 2,410,870
5、支部等事業助成金	6,000,000	5,630,042	△ 369,958
II 在学生支援事業費	8,145,000	8,095,000	△ 50,000
1、新会員歓迎費	3,345,000	3,345,000	0
2、在学生助成金	4,300,000	4,250,000	△ 50,000
3、银杏祭補助金	500,000	500,000	0
III 本部運営費	7,400,000	3,532,929	△ 3,867,071
1、会議費	3,500,000	2,119,231	△ 1,380,769
2、通信費	500,000	320,530	△ 179,470
3、事務費	1,500,000	1,012,521	△ 487,479
4、慶弔費	500,000	58,250	△ 441,750
5、消耗品費	100,000	0	△ 100,000
6、雑費	300,000	19,247	△ 280,753
7、渉外費	1,000,000	3,150	△ 996,850
IV 積立金	15,000,000	15,000,000	0
V 予備費	2,337,051	0	△ 2,337,051
合計	58,732,051	45,644,538	△ 13,087,513

△：予算額に対する減額

次期繰越金	91,203,413
前期積立金繰越①	64,131,223
収入の部合計②	57,716,728
支出の部合計③	45,644,538
平成22年度積立金④	15,000,000
差引残高(①+②-③+④)	91,203,413(平成23年度へ繰越)

※会計指導により、積立金は支出計上後、「資産」として次期繰越金に含める。

鴨台倶楽部申請団体一覧

系	名称	会長名
1 クラブ・サークル系	大正大学鴨台卓球会	石田 祐寛
2 クラブ・サークル系	鴨空会	水野 弁雄
3 クラブ・サークル系	大正大学音楽部同窓会	新井 信哉
4 クラブ・サークル系	大正大学書道研究会 旺美会	赤平 和順
5 クラブ・サークル系	大正大学茶道部鴨台会	霜村 観真
6 学寮系	道心寮鴨台会智山派 連絡協議会	北林 照隆
7 職域系	教職鴨台会	赤平 和順
8 職域系	医療福祉鴨台会	高橋 行憲
9 職域系	大正大学ホテル鴨台会	忍足 尚政
10 学内・学会系	大正大学社会福祉学会	大谷 寿雄
11 有志系	彩の国鴨台会	高橋 行憲
12 有志系	大正大学鴨台倶楽部 『守成会』	陶山 義憲

報告事項

1. 大正大学創立90周年記念事業に関する勸募の件

大正大学創立90周年記念事業勸募活動については、東日本大震災の被害等を鑑み、今年度は積極的な情宣活動は差し控えるとともに、勸募期間を1年間延長することとなった旨の報告がなされた。

なお、各支部に支給している勸募活動補助費については、勸募活動を自粛している関係から今年度の支給を来年度に延期す

る旨の報告がなされた。

2. T.S.Rシップ鴨台プロジェクト東日本大震災支援事業の件

様々なご縁をいただき、東日本大震災で被災した宮城県南三陸町にて学生・教職員がボランティア活動を行った。配布資料、スライド及びDVDを使い、活動報告がなされた。

大学に残る隠れた名品・知的資産

大正大学 資産

ちりめん本

因幡の白兔に桃太郎、ぶんぶく茶釜、舌切り雀。私たち日本人が慣れ親しんだ昔話が「JAPANESE FAIRYTALE SERIES」とシリーズで英訳され、20冊の小冊子に仕立てられています。一般に「ちりめん本」と呼ばれるこのセットは、本学の図書館が2007年に購入した貴重図書のひとつです。

ちりめん本は明治時代に誕生しました。貿易商の家に生まれ、少年時代から外国人と交流のあった長谷川武次郎が、来日する外国人の土産物用にと企画・発行したものです。従って英語版以外にも独語版、仏語版、スペイン語版、ポルトガル語版が発行されました。翻訳を依頼されたのは主に東京近郊に居住する外国人宣教師や教師らで、中には小泉八雲として知られるラファカディオ・ハーンもいました。その訳文



奥付を見ると大正10年9月1日に第16版として発行されたのが確認できる。ちりめん本は明治18年に初版が発行され、昭和初期まで流行が続いた

に浮世絵の技法を用いた多色木版刷りの絵を合わせ、装丁は糸を使う和綴じ。さらに刷り終えた和紙は縦・横・斜め方向に細かくシワを寄せ、縮緬のように加工しています。手に取ると布と錯覚するほど柔らかく、それがちりめん本という名の由来になっています。

発売された当時はエキゾチックな土産物として珍重され、のちに輸出も行われたそうです。また日本の風俗や文化を伝える資料としても有用で、本学では人文学科のシャウマン・ヴェルナー教授が絵本の一種として研究に使用しています。

本学にあるセットは保存状態が極めて良く、当時の色合いがそのまま残っているかのようです。貴重図書特別展示などの機会に見ることが出来ます。

本学図書館が所蔵するちりめん本「日本昔噺」は20冊が揃った状態で専用箱に収められている。中には羅生門、大江山など能の謡曲で使われる物語もある

大学広報誌『Ohdai (89号)』より転載させていただきました。

大学広報誌『Ohdai (88号)』より転載させていただきました。



伝統技法「西陣織錦織」で織られた校旗。フレージ(房)まで含めた寸法は横150センチメートル、縦128センチメートル。冠頭・旗棒を含めた総重量は約4.4キログラムに達する

大学に残る隠れた名品・遺産を訪ねて

大正大学 遺産

校旗



中央の菩提樹の実は釈尊を表し、その中の大小8つの点は八万の法蔵と八相を示している。3枚の菩提樹の葉は釈尊の誕生・成道・涅槃を表したものだ

創立とほぼ同時期に作られた最初の校旗は、70年を経た1996年に新たに作り替えられました。したがって今の校旗は2代目です。

この作り替え時に、初代と同じものを作ってもらおうと製作者者に依頼したのですが、当初は「現在の技術でこの通りの織物を作るのは難しい」と、まず言われたそうです。それでも業者の努力もあって何とか再現することが出来たのですが、それには「正絹西陣綾錦織、改良金糸盛上げ総刺繍」という高度な技法が必要となりました。この技法で校旗に表された紋様が、本学の校章です。

現在、校章の他にシンボルマークもあります。シンボルマークは本学の伝統と未来、学生像などを示しつつ広く学内外へアピールするのが目的です。

これに対し校章は、建学の精神や社会での存在意義を表すものとして、大正15年の大学創立時に意匠されました。

そこには釈尊の生涯や教え、仏教精神などが図柄によって表現されています。

大正大学は、5世紀はじめにインドのナールンダーに建てられた総合大学である那蘭陀寺を再現するものとして建学されました。那蘭陀寺は世界最古の大学と言われ、釈尊もここで説法をしたとされています。7世紀には中国の留学僧・玄奘も学びました。玄奘はのちに「那蘭陀寺は大乗小乘兼学の地だった」と伝えているそうです。本学も4宗派が一緒になって新たな価値を創造していくという特徴があり、それはまさに最盛期に1万人以上の学徒が集って学んだという那蘭陀寺と共通しているのです。



鴨台会ホームページ

http://www.tais.ac.jp/related/ex_org/alumni/alumni.html



① 鴨台会について知りたい

鴨台会の基本情報を掲載しております。「大正大学90周年のあゆみ」も映像でご覧いただけます。

② 住所変更等について

転勤、ご結婚で住所やお名前が変更になりましたら必ず手続きしてください。

④ 情報誌を読みたい

鴨台会会報のブックナンバーや、大正大学出版会、大学が発行する定期刊行物、大正大学広報「Ohdai」の情報をご覧いただけます。

③ 大学について知りたい

大学の最新情報をご覧いただけます。学長メッセージも掲載してあります。

鴨台会ホームページの手順



リニューアルされた
鴨台会ホームページ

鴨台会ホームページでは、同窓生の皆さまに最新情報を提供しております。支部総会の案内や、鴨台倶楽部の紹介をします。また本号で紹介したホームページ連載企画も随時更新します。

平成24年度 入試日程

試験種類	試験日	出願時期	合格発表	手続き期間
一般入試 (前期日程)	2月1日(水) 2月3日(金)	1月5日(木) 1月25日(水) 消印有効 1月26日(木)・27日(金) 窓口	2月10日(金)	2月13日(月) 2月21日(火)
編入学試験Ⅱ	2月3日(金)	1月5日(木) 1月25日(水) 消印有効	2月10日(金)	2月13日(月) 2月21日(火)
一般入試 (後期日程)	3月1日(木)	2月13日(月) 2月23日(木) 消印有効 2月24日(金)・27日(月) 窓口	3月8日(木)	3月12日(月) 3月19日(月)
大学入試センター試験 利用入試	前期 1月14日(土) 1月15日(日)	1月5日(木) 1月13日(金) 消印有効	2月10日(金)	2月13日(月) 2月21日(火)
		1月18日(水) 2月17日(金) 必着	2月24日(金)	2月27日(月) 3月6日(火)
		2月21日(火) 3月19日(月) 必着	3月23日(金)	3月26日(月) 3月30日(金)

進学相談会

各地域での進学相談会に参加しています。お近くの方はぜひお立ち寄りください。

- 3月17日 10時30分～16時 神奈川県 横浜 横浜新都市ホール(横浜そごう9F)
- 3月19日 12時～17時 神奈川県 横浜 パシフィコ横浜
- 3月20日 10時～16時 埼玉県 大宮 大宮ソニックシティ
- 3月24日 10時～16時 東京都 有楽町 東京国際フォーラム

※その他確定次第、随時、ホームページで更新します。

入試に関するお問い合わせ・進学相談会のお問い合わせは
大正大学アドミッションセンター ☎ 03-3918-7311 (代表)

http://www.tais.ac.jp/admission/fac_ad/

住所変更等の申請をお願いいたします!

卒業後に住所等の変更がございましたら、上記②、または大正大学校友会室まで必ずご連絡ください。



大正大学
鴨台会報

Vol. 94

大正大学 校友会室
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨 3-20-1
TEL.03-5394-3031 FAX.03-5394-3014
Eメール：dousou@mail.tais.ac.jp